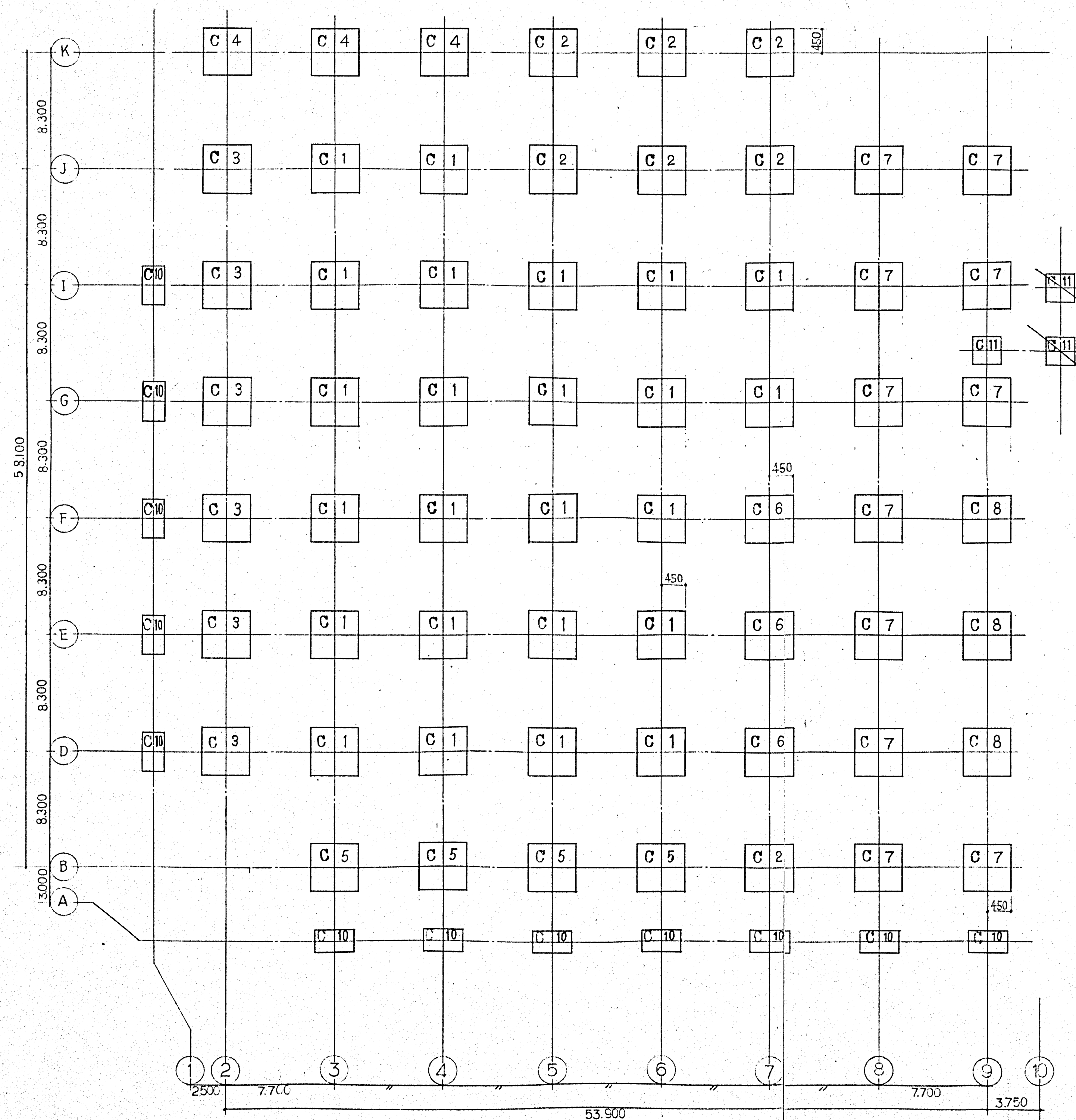
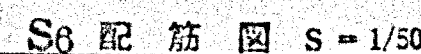




JOB NAME KK西友ストア一関西大和郡山店新築工事			JOB NO.
DWN. NAME 株式会社 西友			SCALE
DES.	DWN.	CRD.	SHEET NO.
APR.	DATE	REV.	S-16
株式会社 西友設計事務所		株式会社 吉村建築事務所	

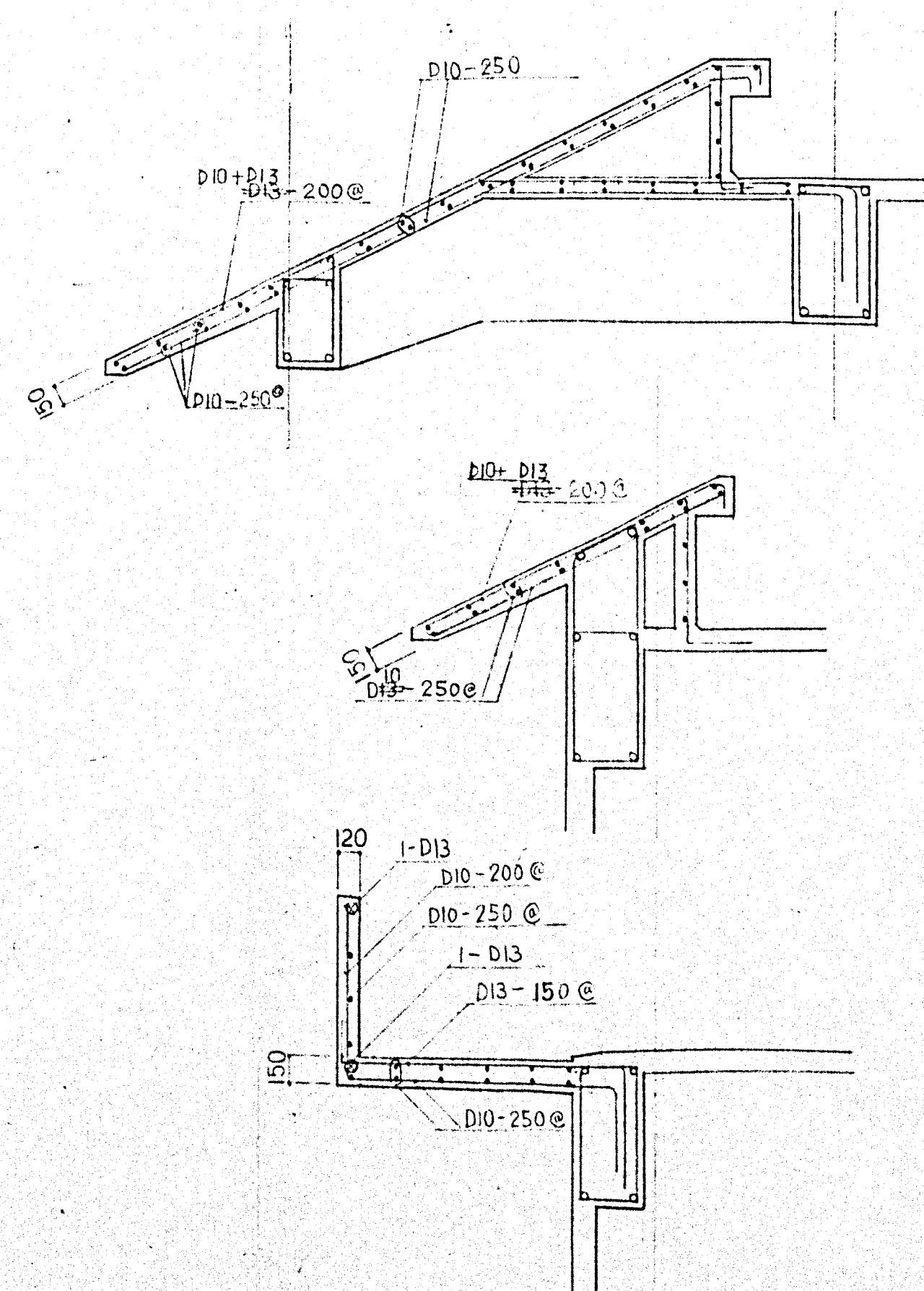
	Cz/A		Cz/A
Cz/A	D	A	D
	C	B	C
Cz/A	D	A	D

8. KF 中求上列小 010-250^② 以上 K2IV

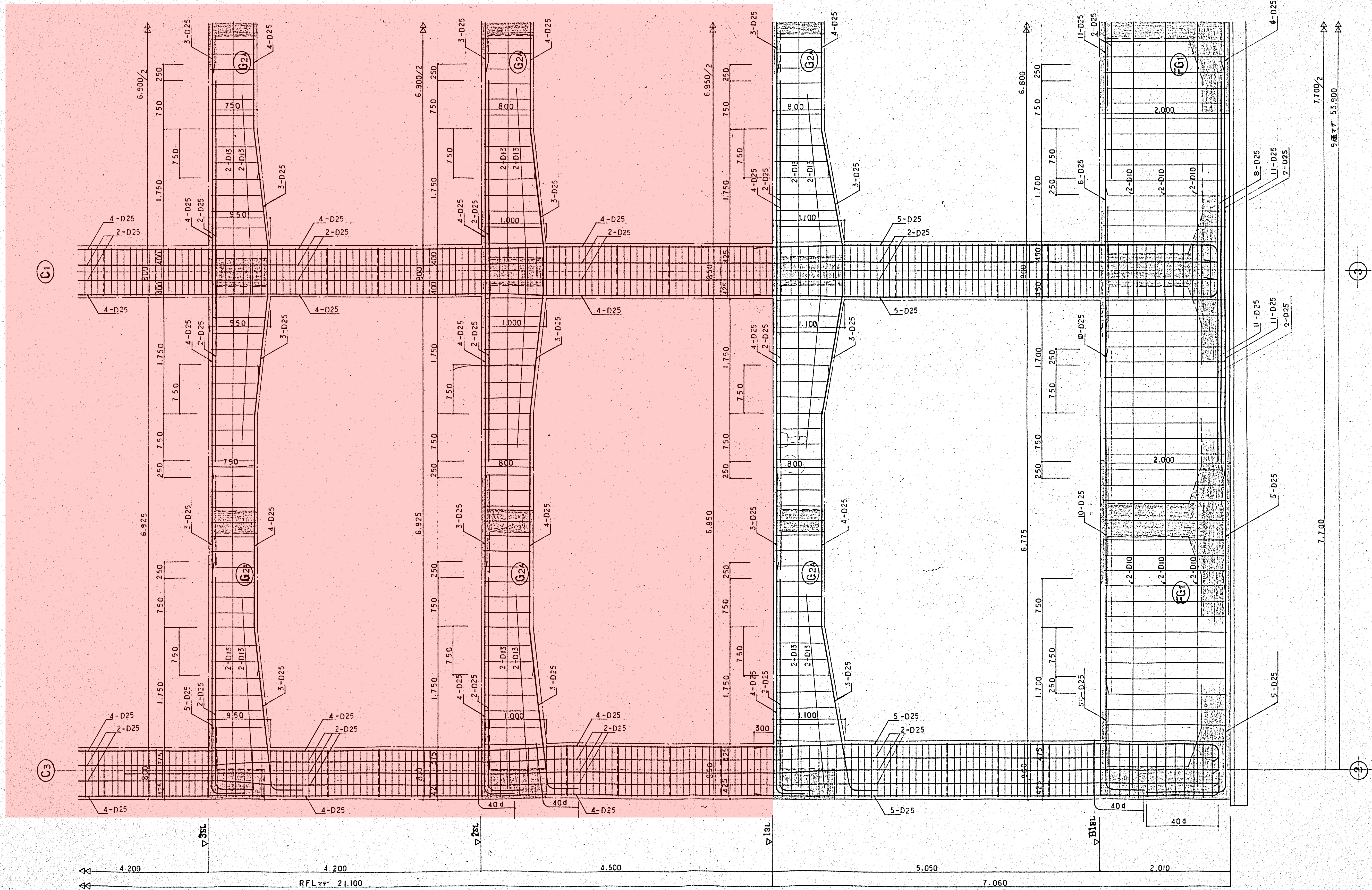


腹筋 2-D10
 中止メ筋 D10
 スターラップ □-D10-@C00

寸法	B0		2G10	
位置	端部	中央	端部	中央
断面				
B × D	350 × 750		400 × 700 ~ 400	
上 縦 筋	3 - D22	3 - D22	4 - D22	3 - D22
下 縦 筋	3 - D22	4 - D22	3 - D22	4 - D22
スチーリング	2-110-金目0			



JOB NO.	JOB NO.	
トキヨネス・パーム園大和郡山床新築工事		
DRAWN BY	SCALE S = 1/50	
川 登 リ ス ト 床 版 リ ス ト		
DES.	CAD.	SHEET NO.
REV.	REV.	S-17
株 式 会 社		有 限 公 司



撤去済

JOB NAME KK 両友ストアー岡田大和郡山店新築工事			JOB NO.
DWG. NAME ① 列 架 構 図			SCALE S = 1/30
DES. APR.	SWR. H4 DATE	CHK. REV.	SHEET NO. S-19
株式会社 極東設計事務所			株式会社 吉村建築

① 通 片 架 設 筋 図 1/30

補註
スラブ厚 200mm 以外部 D13 100 PH.5, 4 柱 フラット D1012L
スラブ厚 200mm 以外部 D13 150 32.1, B1 柱 フラット D1012L
ササリ厚 200mm D10 100 400 600 0
スラブ厚 200mm D13 250 0 400 450
D10 0 200 0 300 350

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

S 1 一般事項

- 1-1 基礎
- 1-2 コンクリート
- 1-3 鉄筋
- 1-4 その他

設計図書に記載なき場合、本標準図に従うものとする。

S 2 共通事項

鉄筋の断面表示は下記の記号による。

記号	丸	角	丸	角	丸	角	丸	角	丸	角
鉄筋	丸	角	丸	角	丸	角	丸	角	丸	角
鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28	D32	D36	D40

- 異形鉄筋の継手表示
- フックがある場合
- 鉄筋本数に差がある場合
- 溶接継手表示

2-2 鉄筋の折曲げ

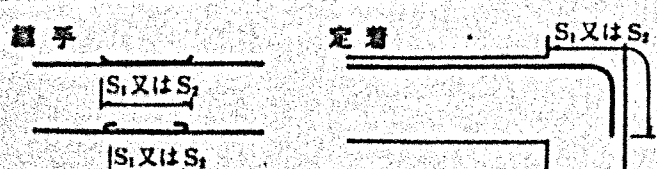
位置	曲げ角度	使用箇所	折曲げ図	鉄筋の種別	内法直径(D)
端部	180°	柱、梁の13mm以上の主筋及び16mm以上の鉄筋		SR 24	3d以上
		フープ		SD 30	3d以上
		フープ		SD 30	3d以上
		フープ		SD 30	3d以上
端部	135°	13mm以下のフープ		SR 24	3d以上
		13mm以下のフープ		SD 30	3d以上
		13mm以下のフープ		SD 30	3d以上
		13mm以下のフープ		SD 30	3d以上
端部	90°	上記以外の13mm以下の鉄筋		SR 24	3d以上
		上記以外の13mm以下の鉄筋		SD 30	3d以上
		上記以外の13mm以下の鉄筋		SD 30	3d以上
		上記以外の13mm以下の鉄筋		SD 30	3d以上
中部	90°	1) フープ		SR 24	3d以上
		1) フープ		SD 30	3d以上
		1) フープ		SD 30	3d以上
		1) フープ		SD 30	3d以上
中部	90°	2) スラブ、鉄筋		SR 24	28φ以下
		2) スラブ、鉄筋		SD 30	28φ以下
		2) スラブ、鉄筋		SD 30	28φ以下
		2) スラブ、鉄筋		SD 30	28φ以下
中部	90°	3) 柱、鉄筋		SR 24	28φ以下
		3) 柱、鉄筋		SD 30	28φ以下
		3) 柱、鉄筋		SD 30	28φ以下
		3) 柱、鉄筋		SD 30	28φ以下

d: 鉄筋の公称直径

2-3 鉄筋の継手及び定着長さ

鉄筋の種別	フック	応力	コンクリート強度 (kg/cm ²)
SR 24	あり	S ₁	FC 180
		S ₂	FC 210
SD 30	あり	S ₁	FC 240
		S ₂	FC 240

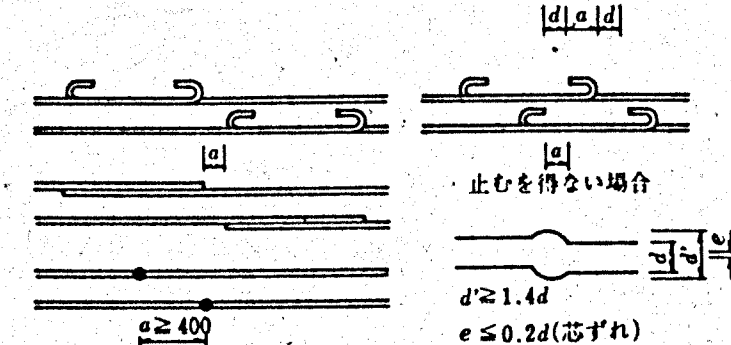
- ()内は軽量コンクリート使用の場合
- S₁は応力の大きい引張鉄筋の場合
- S₂は異形鉄筋の割断のむねのない部分への定着と圧縮鉄筋(または応力の小さい引張鉄筋)の場合
- 鉄筋径が異なる場合は、小さい方による。



2-4 鉄筋の最小被り厚さ

構造部分の種別	普通コンクリート	軽量コンクリート
土に接しない部分	床版 20	20
土に接する部分	柱、梁、壁 40	50
基礎、擁壁	60	70
煙突など高熱をうける部分	50	50

- 鉄筋と鉄筋のあきaは原則として下記の寸法以上とする。
- 丸筋 a ≧ 1.5d
- 異形鉄筋 a ≧ 1.7d
- 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。



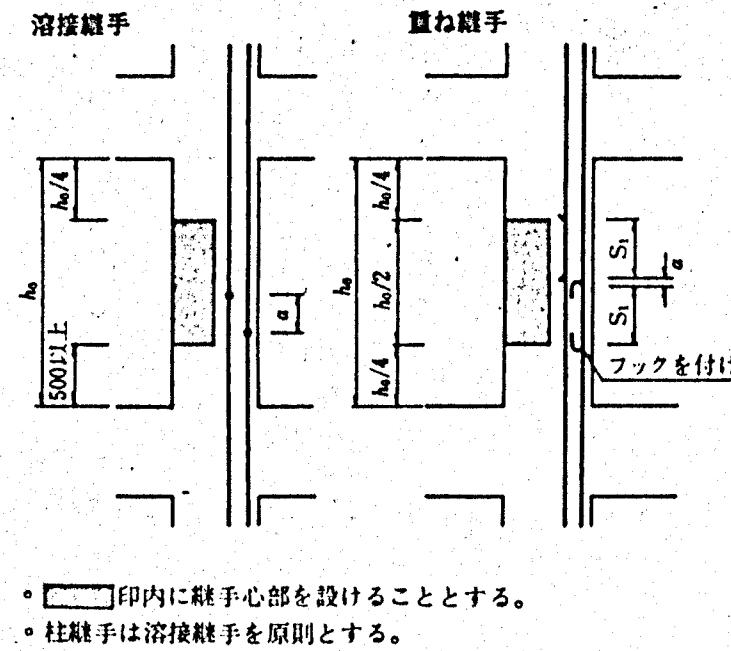
2-5 鉄筋のフック

- 丸筋の末端部には必ずフックを付ける。
- 異形鉄筋の末端部には下記の場合にフックを付ける。
- 1) 柱主筋の隅筋、最上階柱頭鉄筋全てとそれに準ずる箇所
- 2) 梁主筋の出隅(地中梁を除く)及び、片持梁上端筋の先端
- 3) 枕、ピア基礎主筋の末端部
- 4) 煙突の主筋

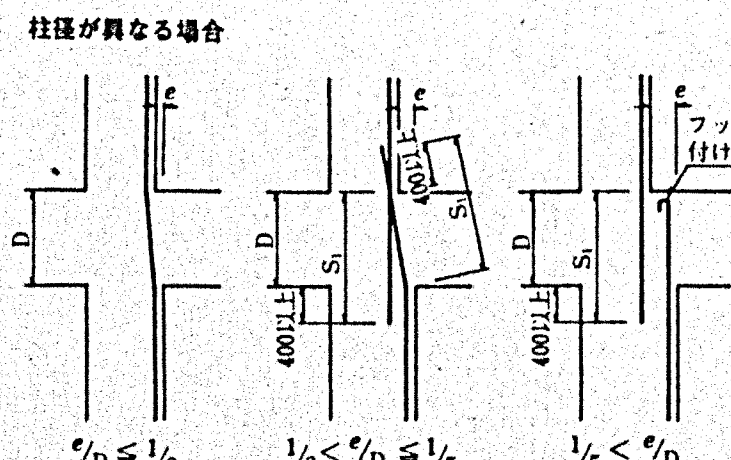
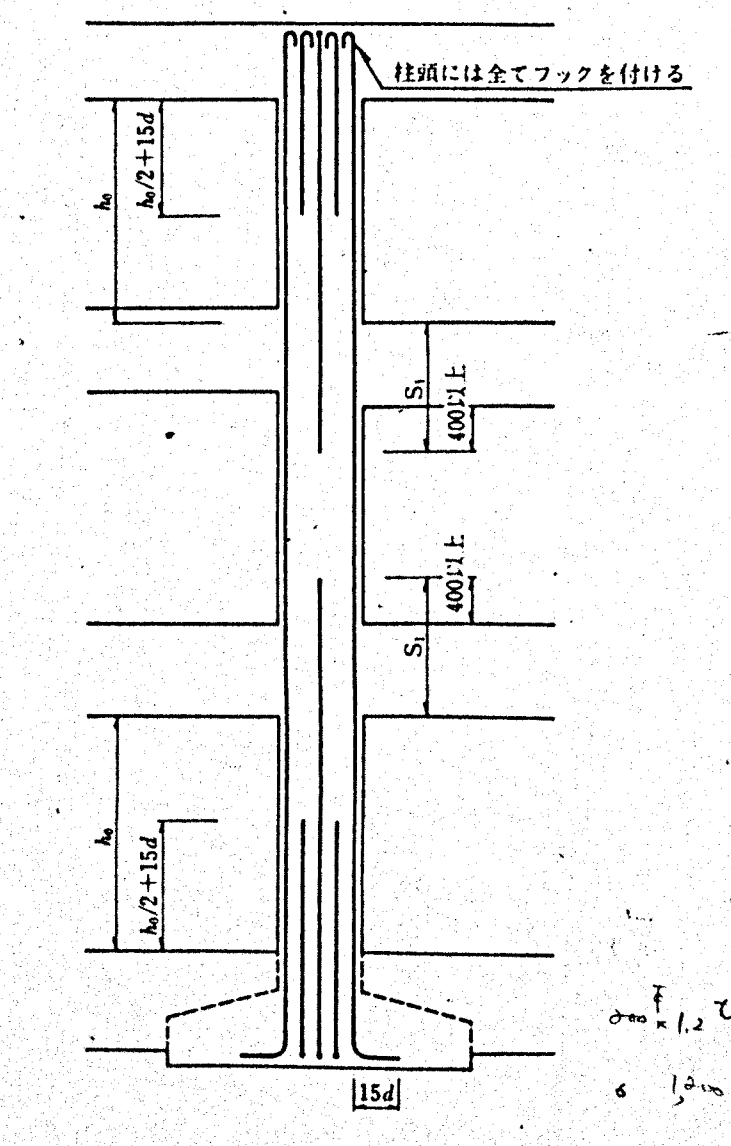


S 3 柱

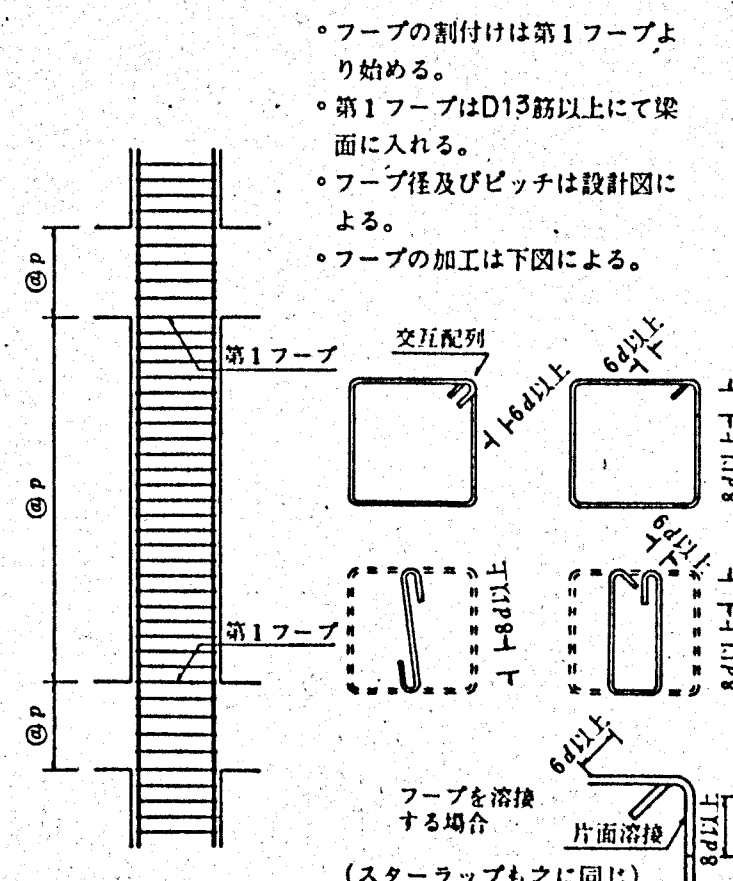
3-1 主筋の継手



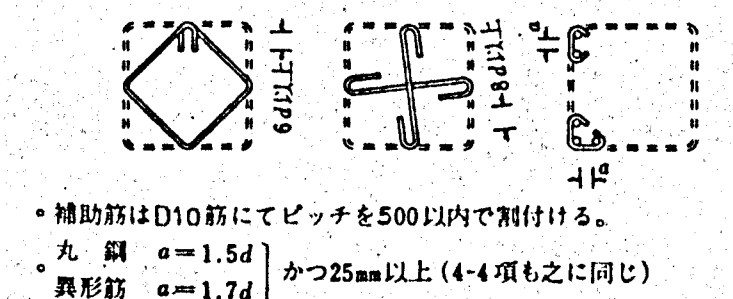
3-2 主筋の定着



3-3 フープ

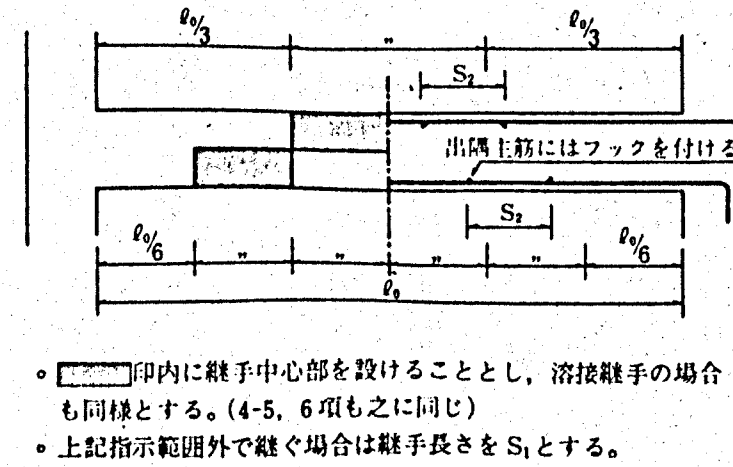


3-4 補助筋

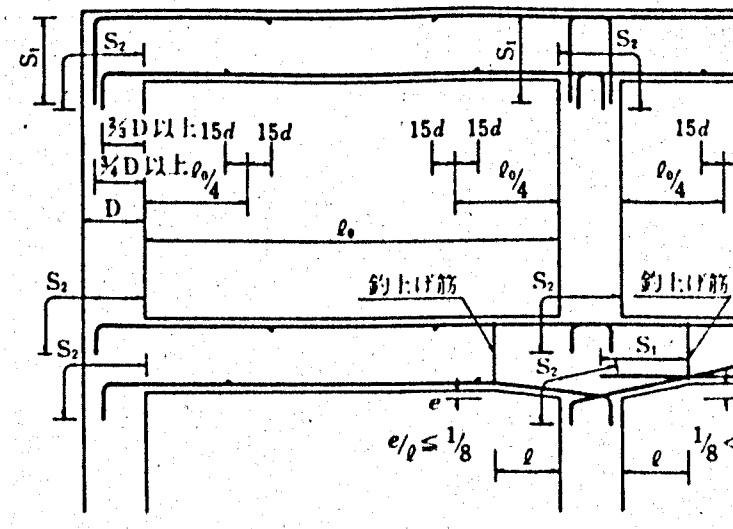


S 4 梁

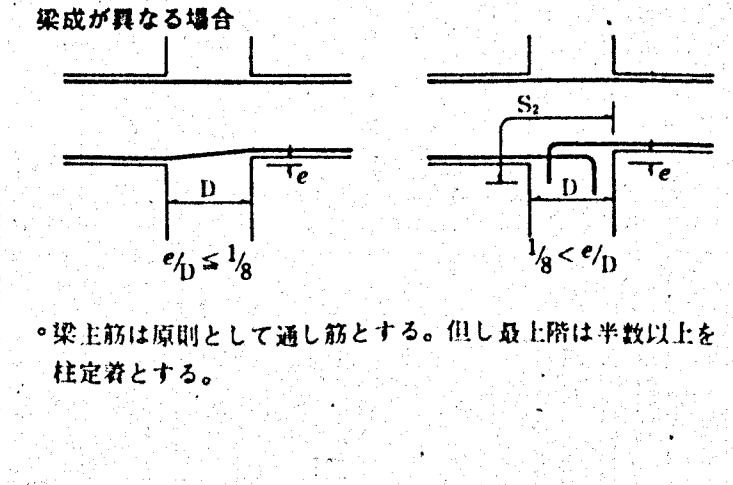
4-1 主筋の継手



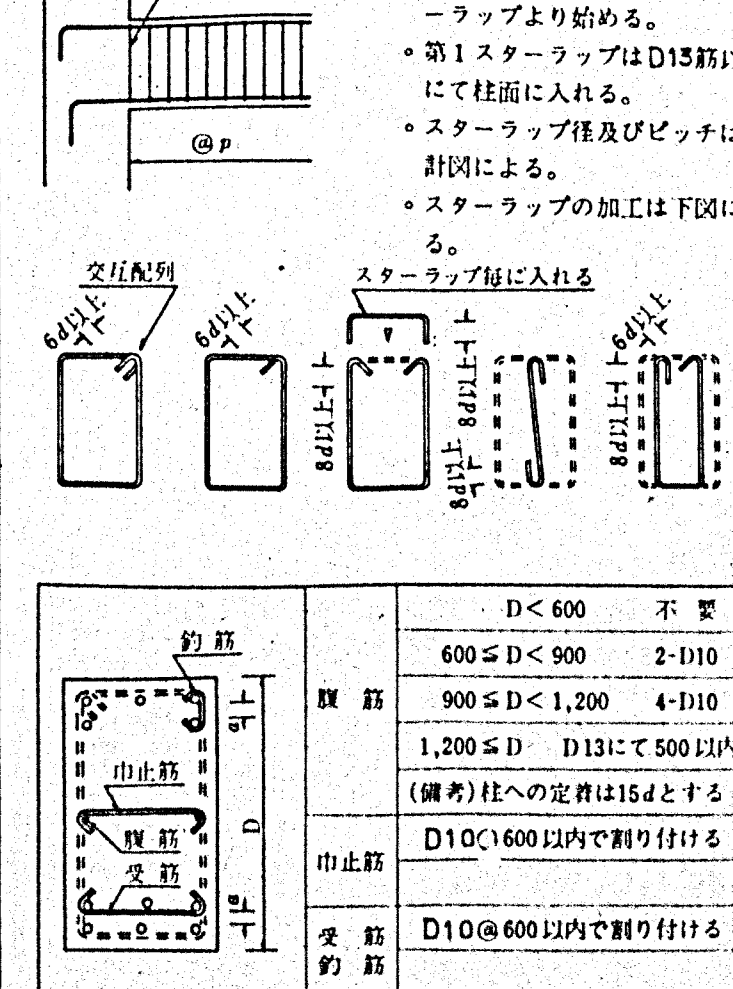
4-2 主筋の定着



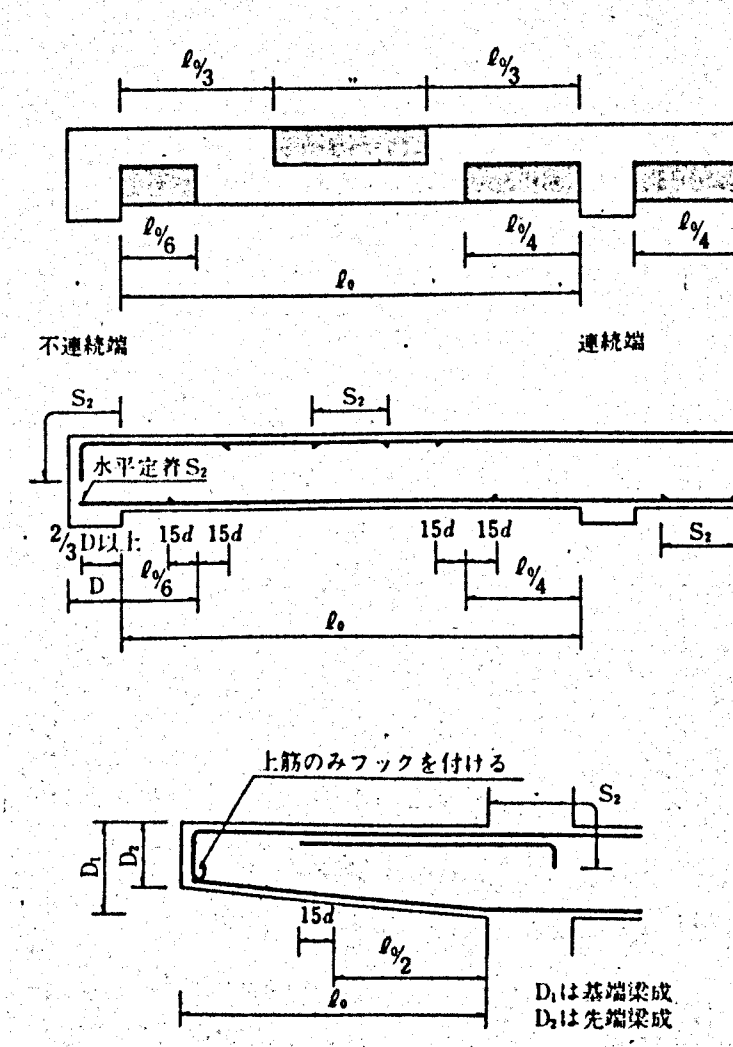
4-3 スターラップ



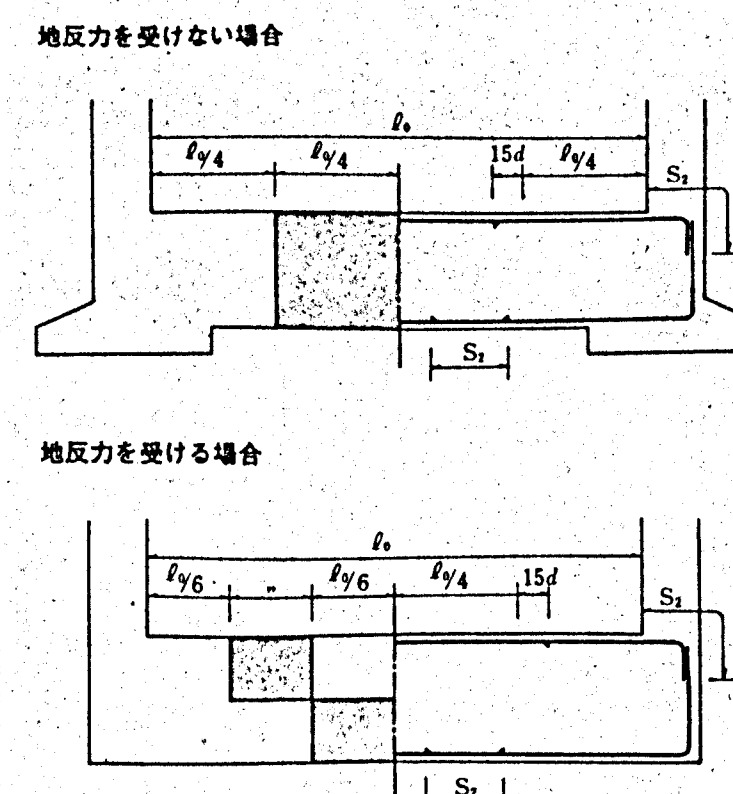
4-4 補助筋



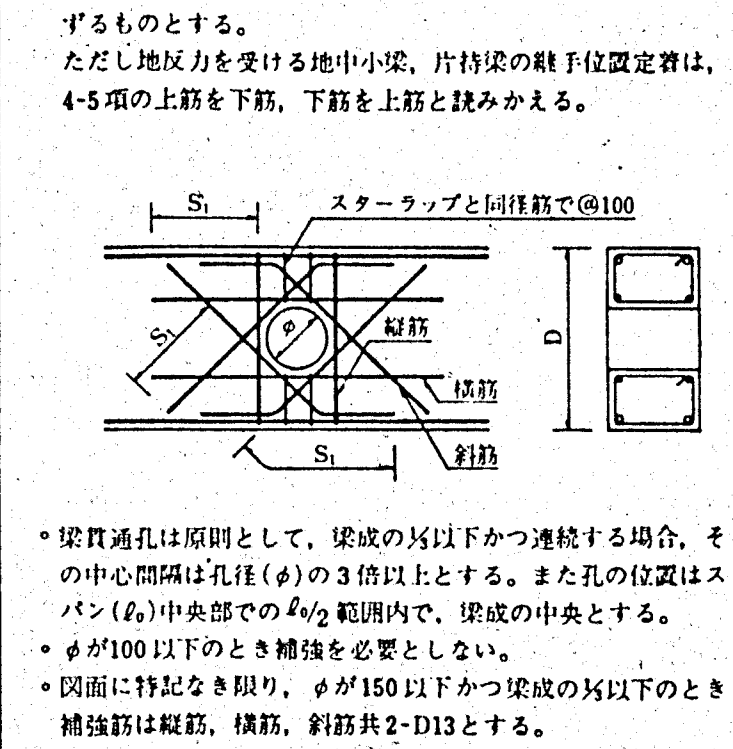
4-5 小梁及び片持梁



4-6 地中梁

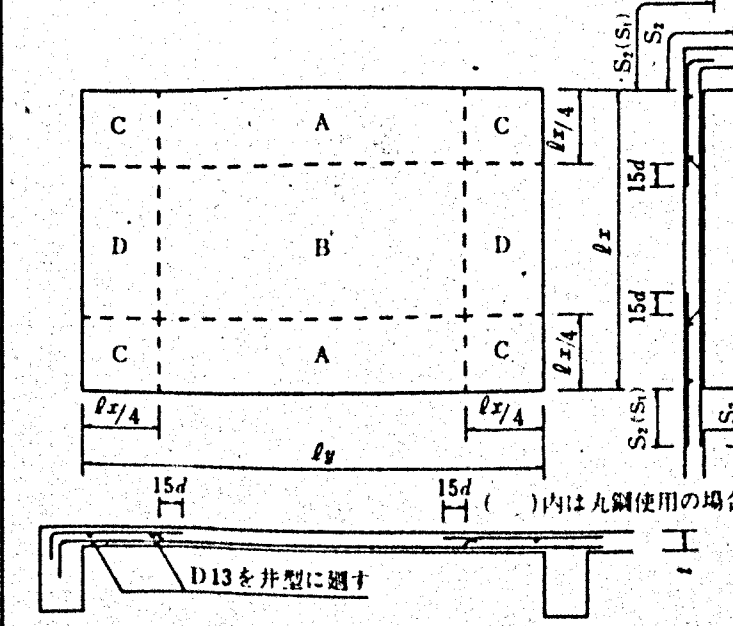


4-7 梁の貫通補強

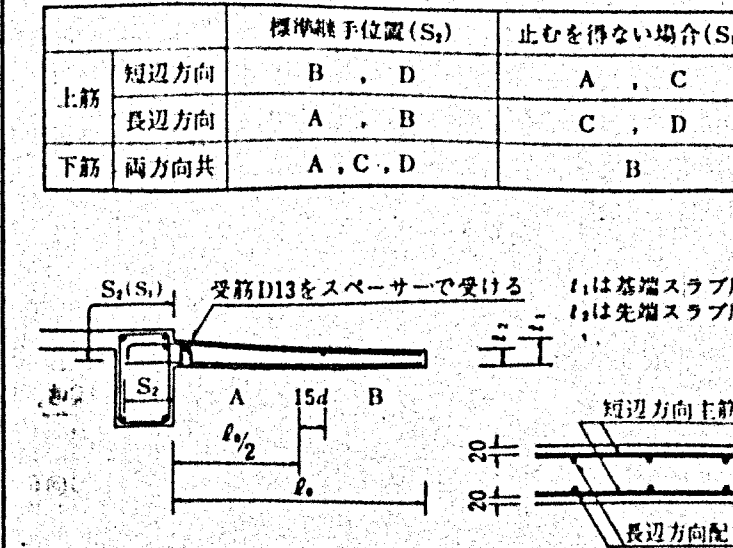


S 5 床版

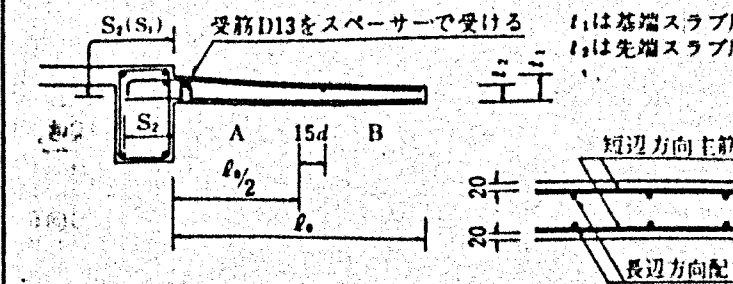
5-1 鉄筋の折曲げ及び定着



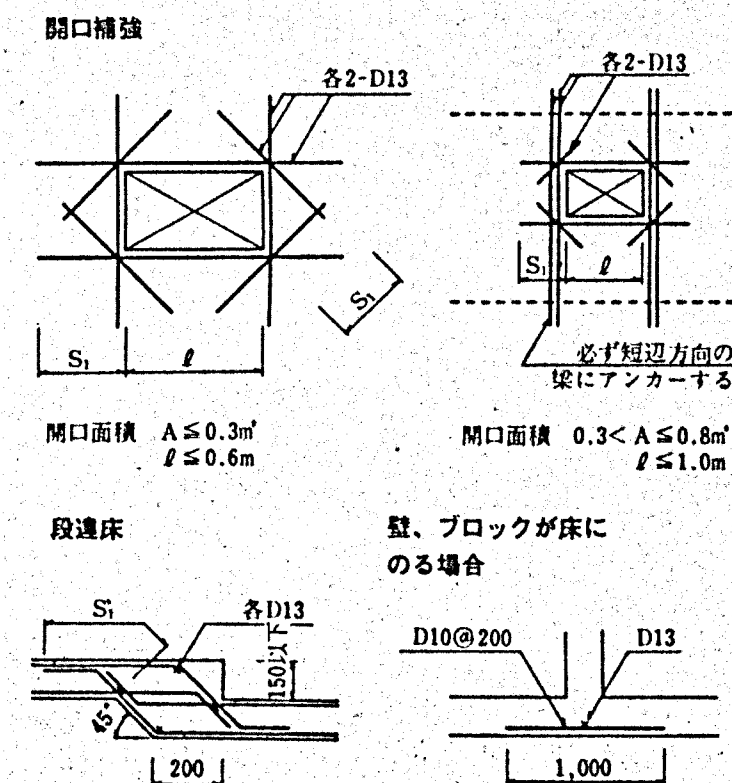
5-2 継手



5-3 片持床

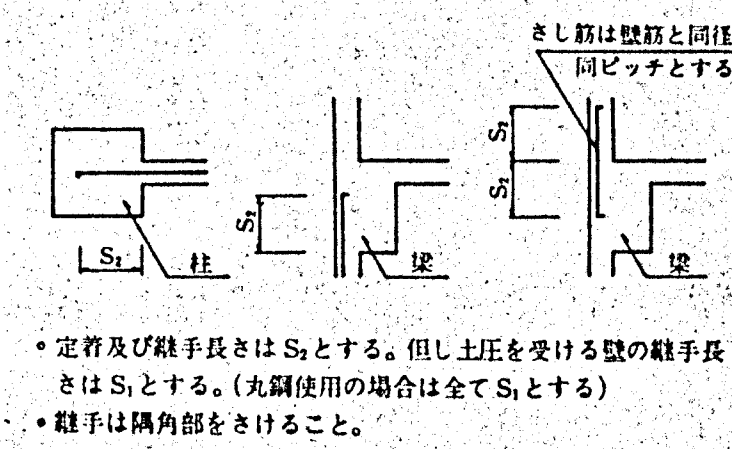


5-4 補強筋



S 6 壁

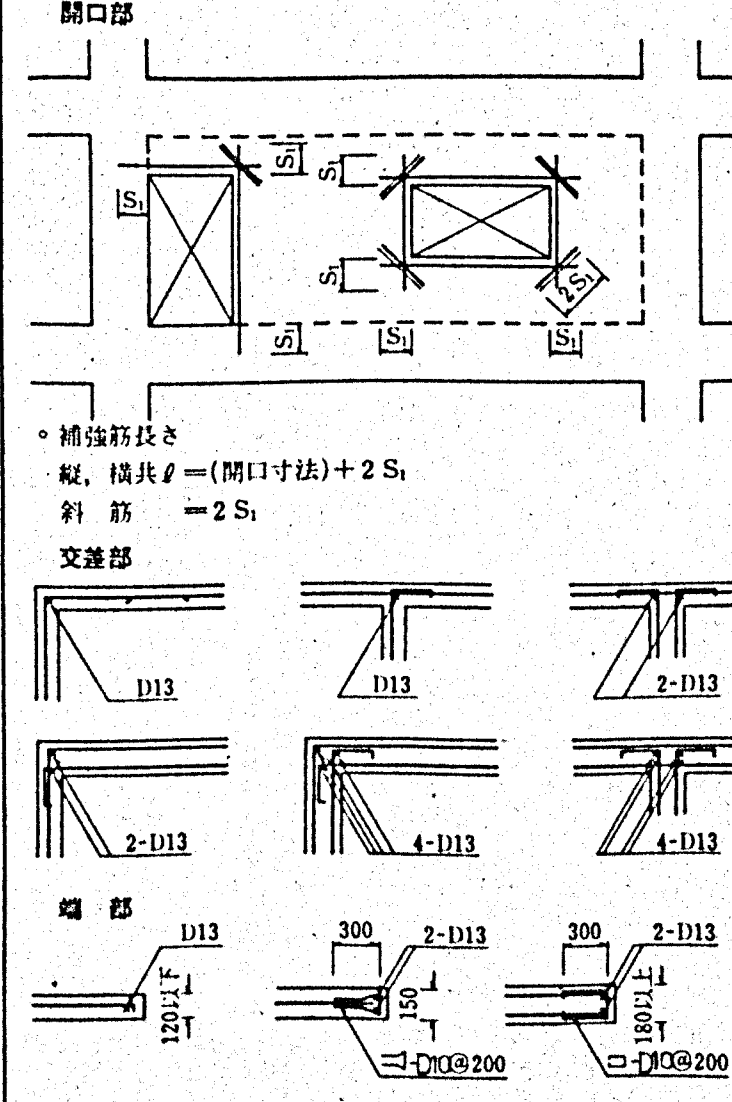
6-1 定着及び継手



6-2 標準壁リスト

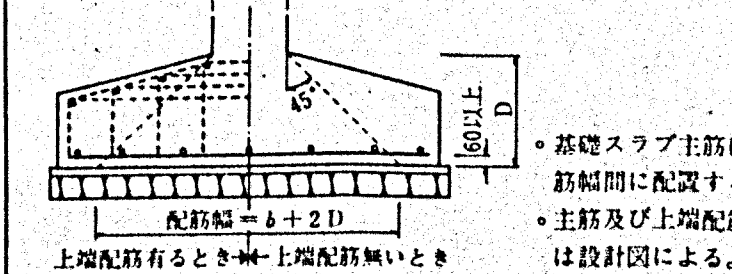
符号	壁厚	鉄筋 (S: シングル, D: ダブル)	開口部補強筋 (縦筋/横筋)
W	100	D10 @ 200 (S)	1-D13(2-D)
W	120	D10 @ 200 (S)	1-D13(2-D)
W	150	D10 @ 200 (S)	2-D13(4-D)
W	180	D10 @ 200 (S)	4-D13(4-D)
W	200	D10 @ 200 (S)	4-D13(4-D)
W	250	D13 @ 200 (S)	2-D16(4-D)
W	300	D13 @ 200 (S)	2-D16(4-D)

6-3 補強

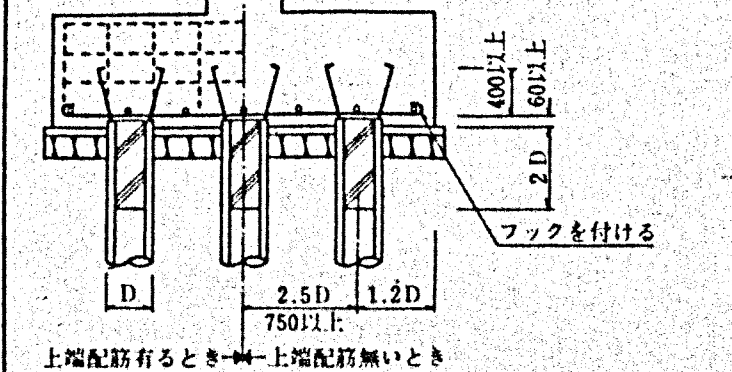


S 7 基礎

7-1 独立基礎



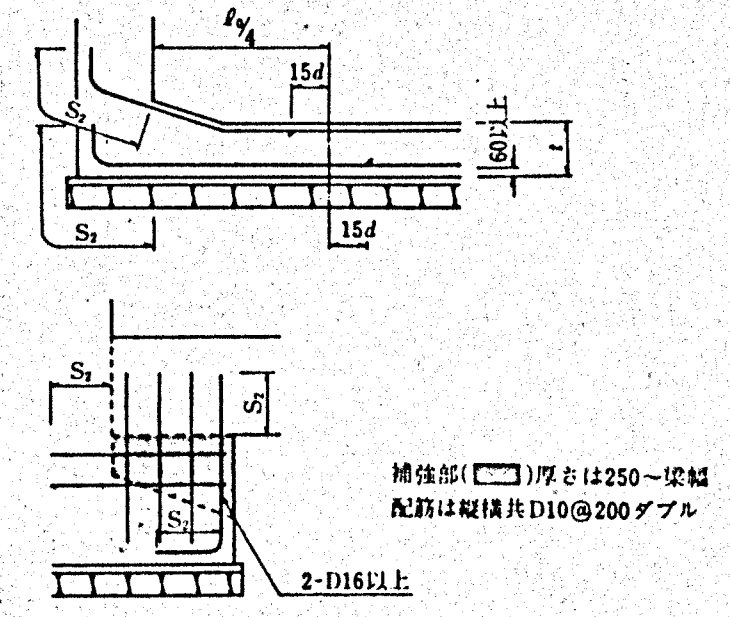
7-2 杭基礎



7-3 ベタ基礎

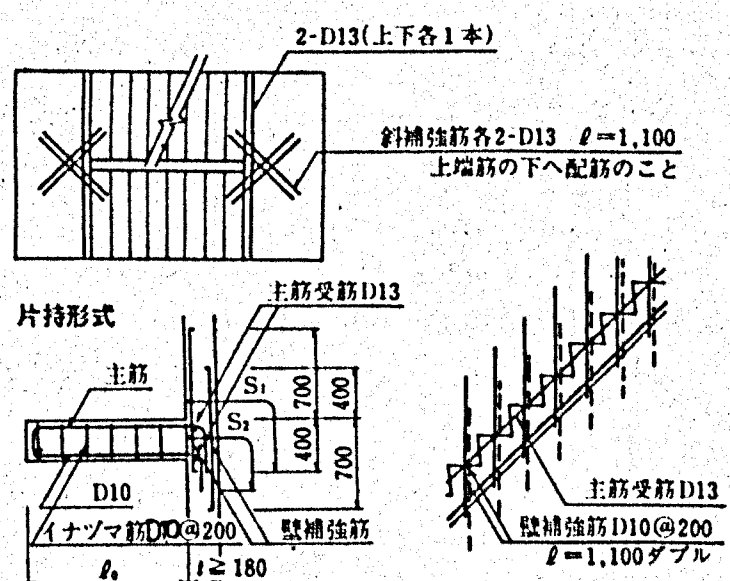
継手位置 (区分図はS-1項参照)	標準継手位置 (S ₁)	止むを得ない場合 (S ₂)
上筋 両方向	A, C, D	B
下筋 短辺方向	B, D	A, C
下筋 長辺方向	A, B	C, D

定着方法

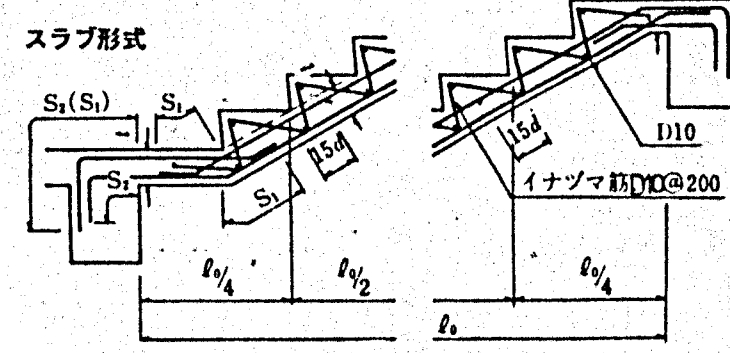


S 8 その他

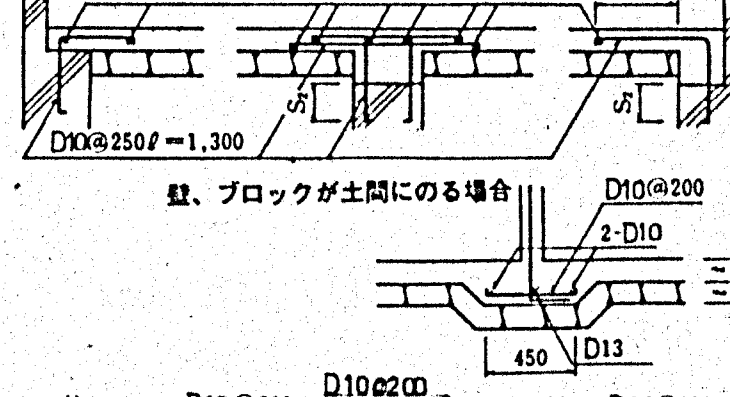
8-1 階段



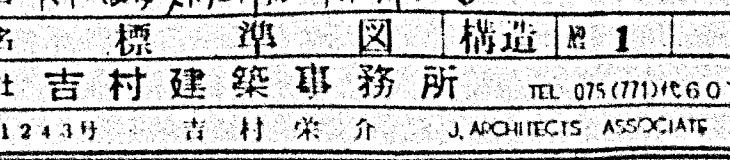
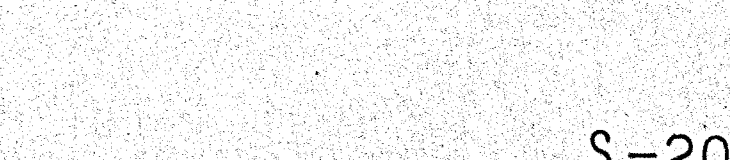
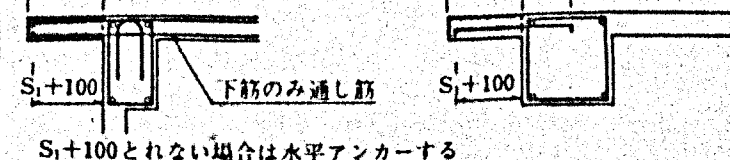
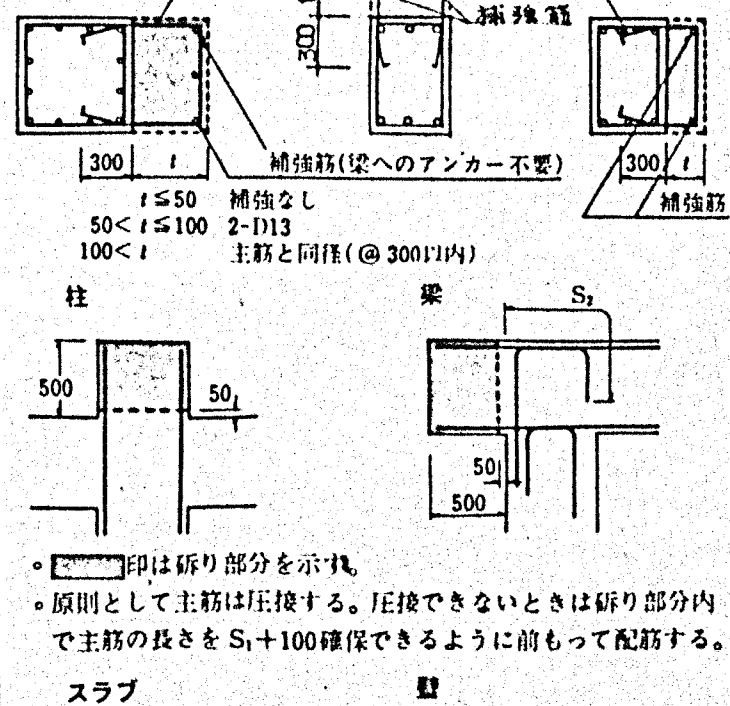
8-2 土間コンクリート



8-3 増打補強



8-4 増築予定



配筋標準図 (1)

※ 標準図より変更箇所
○ 全形 斜線部は使用スル
△ 改正標準図採用スル

一般事項

1-1 総則

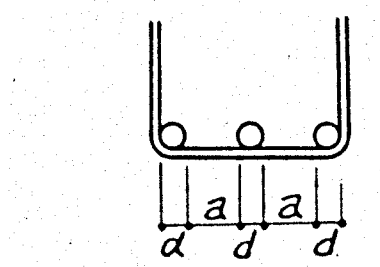
- a) 本標準図は鉄筋の加工と配筋の一般標準を示すものである。
b) 本標準図に示した以外の加工配筋については下記の標準に従うものとする。
i) 建築工事標準仕様書 同解説 JASS 5
鉄筋コンクリート工事
ii) 鉄筋コンクリート構造計算標準 同解説
日本建築学会
c) 本標準図とその他の設計図に食い違いがある場合は設計図に従うこととする。
d) 本標準図中に単位を明示する場合は mm を示す。
e) 本標準図中に特記なき場合の各部材の記号は下記による。
F 基礎 B.G 大梁 S 床版
C 柱 小梁 W 壁
ST 階段
f) 本標準図中に特記なき場合の各部材の記号は下記による。
n C m, n B m, n S m
n は階と m は種類を示す。
g) 本標準図中に特記なき場合の各部材の記号は下記による。
9φ (D10) 22φ (D22)
13φ (D13) 25φ (D25)
16φ (D16) 28φ (D28)
19φ (D19) 32φ (D32)

1-2 鉄筋の振り厚さと間隔

構造部分の種類		振り厚さ	
構造部分の種類		標準	最小
主筋	耐力壁以外の壁	20	20
	耐力壁	30	30
	耐力壁以外の壁	30	30
	耐力壁	40	40
土に接する部分	基礎及び擁壁	60	70
	埋込コンクリート部	40	50

但し土に接しない部分の振厚は主筋に D29, D32 を使用する場合には D29: 35mm, D32: 40mm 以上とする。

b) 鉄筋間隔



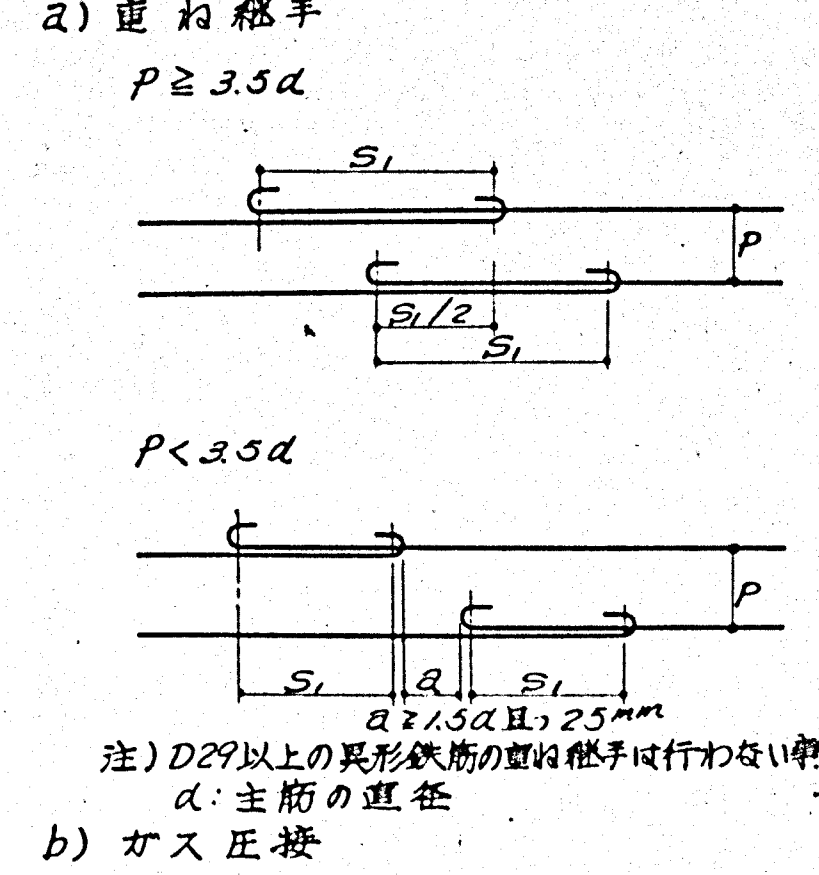
a ≥ 1.5d 且つ 25mm 以上

1-3 鉄筋の折曲げ標準

鉄筋径	使用箇所	曲げ角度	形状	SR24	SD30	SD35
フック	柱梁の主筋等	180°		r ≥ 1.5d (2.5d)	r ≥ 2.0d (2.5d)	r ≥ 2.5d (3.0d)
		135°		r ≥ 1.5d (2.5d)	r ≥ 2.0d (2.5d)	r ≥ 2.5d (3.0d)
		90°		r ≥ 1.5d (2.5d)	r ≥ 2.0d (2.5d)	r ≥ 2.5d (3.0d)
ベント	梁スラブ筋の交差	90°		r ≥ 6d	r ≥ 8d	r ≥ 8d
		> 90°		r ≥ 6d	r ≥ 8d	r ≥ 8d

(注) 1. () 内は軽集約コンクリート使用の場合の値を示す。
2. 異形鉄筋でいかなる場合もフックと必要とする箇所。
i) 柱及び梁の出隅(ツマヤ)を除く。最上階柱頭
ii) 埋込

1-4 鉄筋の継手



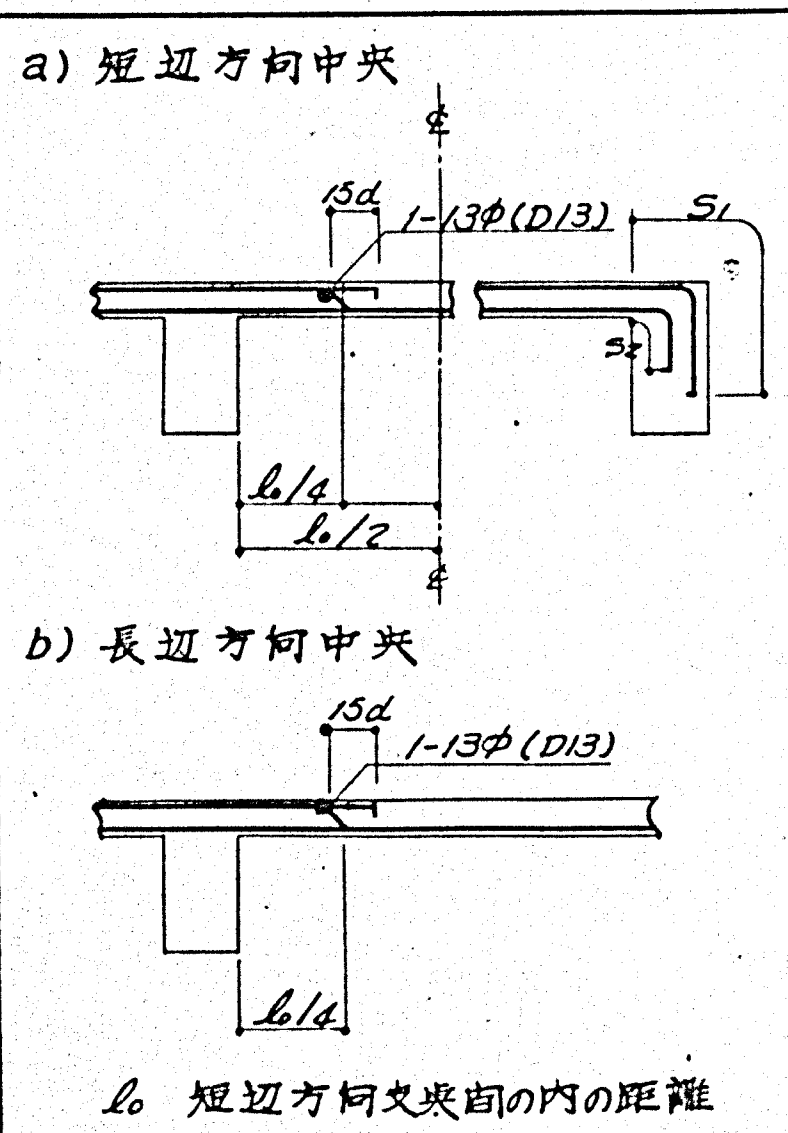
1-5 鉄筋の定着及び継手慣用長さ

S₁ 引張応力がある鉄筋の定着及び継手慣用長さ
S₂ 圧縮または引張応力がない鉄筋の定着及び継手慣用長さ
注) 1. 径の異なる鉄筋の場合は細い径による。
2. () 内は軽集約コンクリートの場合であり、記入なき場合は普通コンクリートの値による。

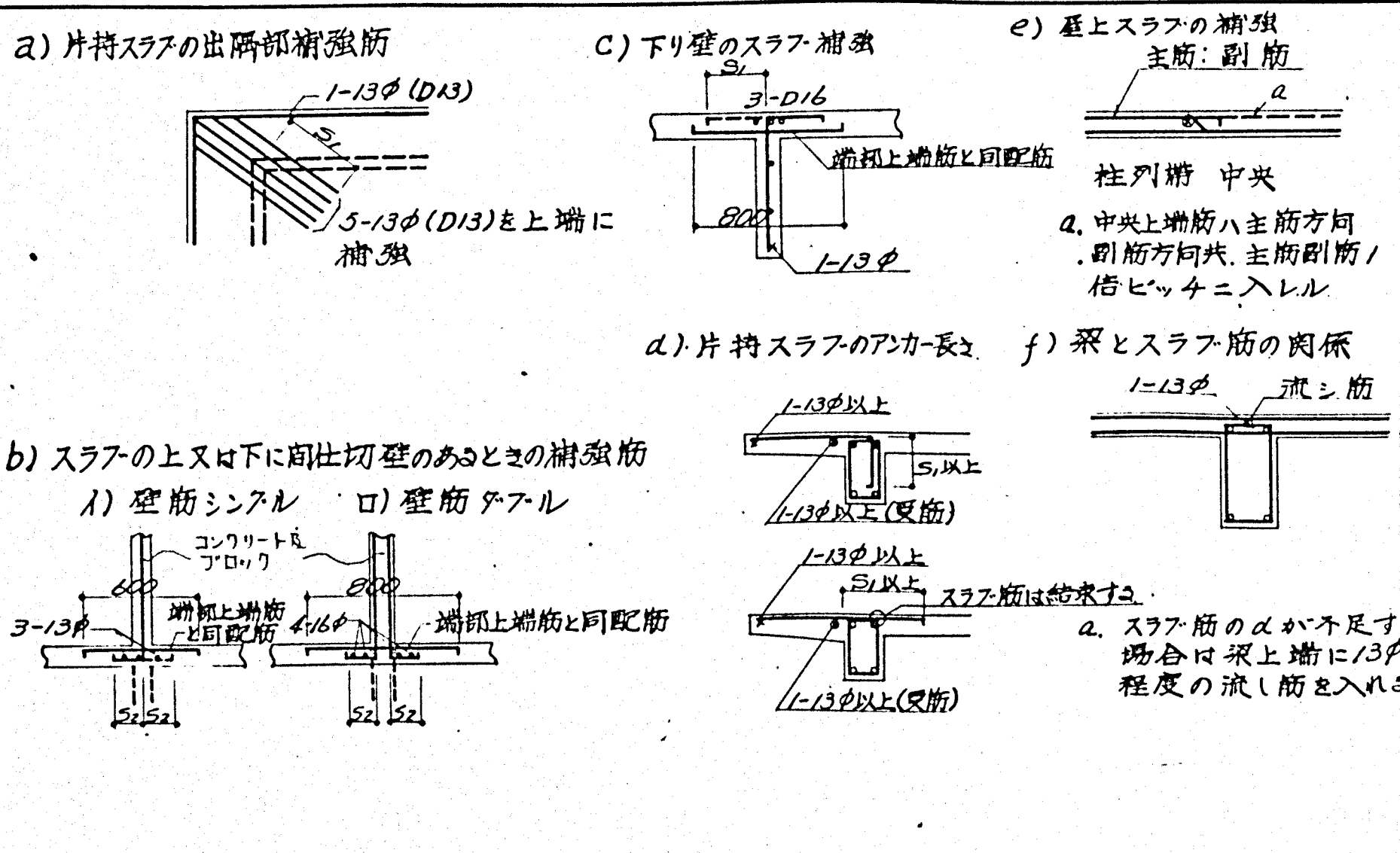
鉄筋種類	引張力	継手及び定着長さ	
		フックあり	フックなし
SR24	F _c = 180	S ₁ 40d ()	— ()
	F _c = 210	S ₂ 25d (30d)	— ()
SD30	F _c = 180	S ₁ 35d ()	— ()
	F _c = 210	S ₂ 25d (30d)	— ()
SD35	F _c = 180	S ₁ 30d ()	— ()
	F _c = 210	S ₂ 25d (30d)	— ()
SD40	F _c = 180	S ₁ 40d ()	— ()
	F _c = 210	S ₂ 25d (30d)	— ()

2

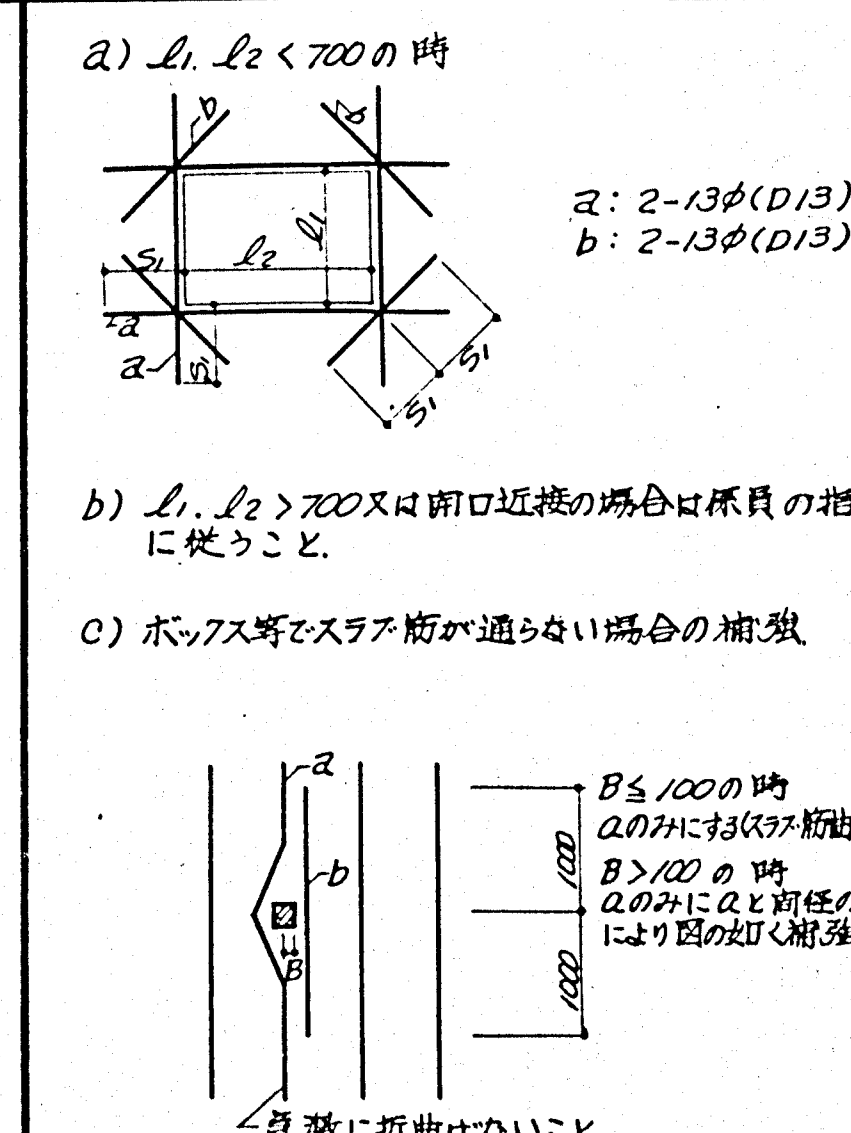
2-1 スラブの配筋及び定着



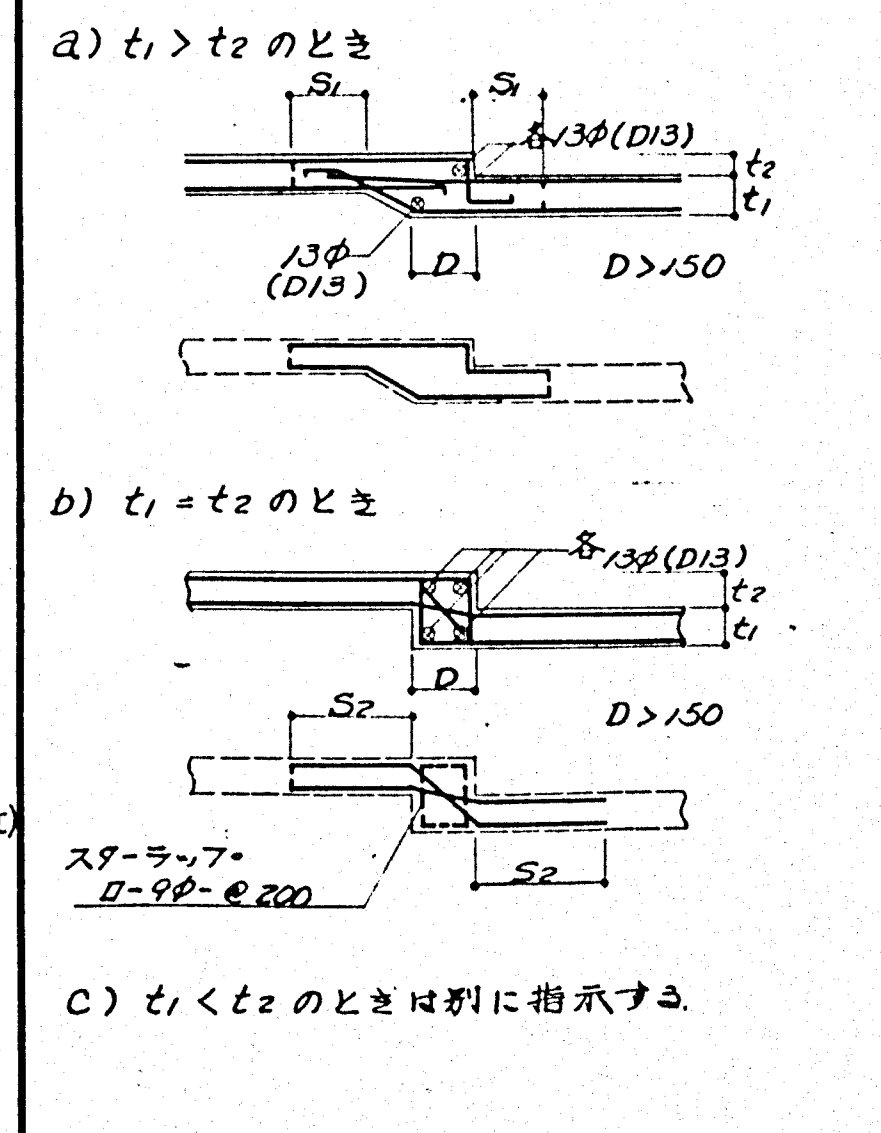
2-2 スラブ亀裂防止の補強



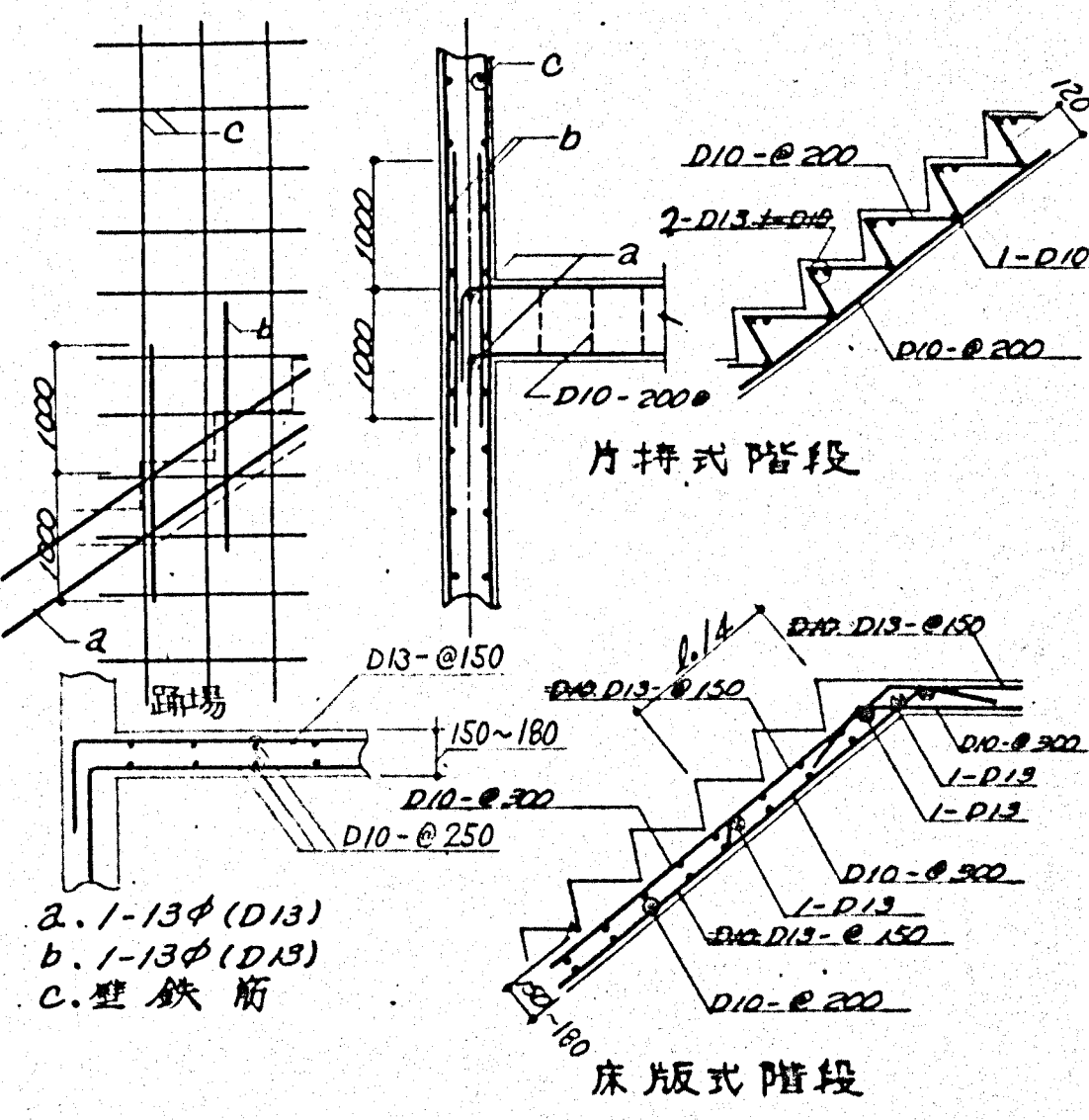
2-3 スラブの開口補強



2-4 段違いスラブの補強

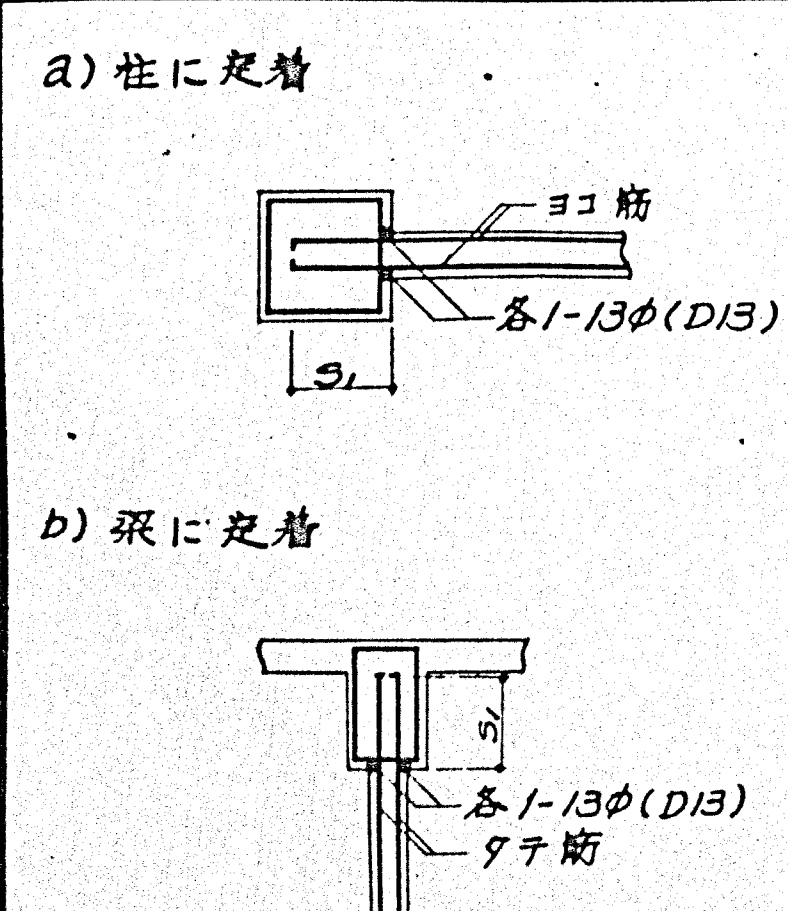


2-5 階段補強 (片持階段の壁補強及び定着)

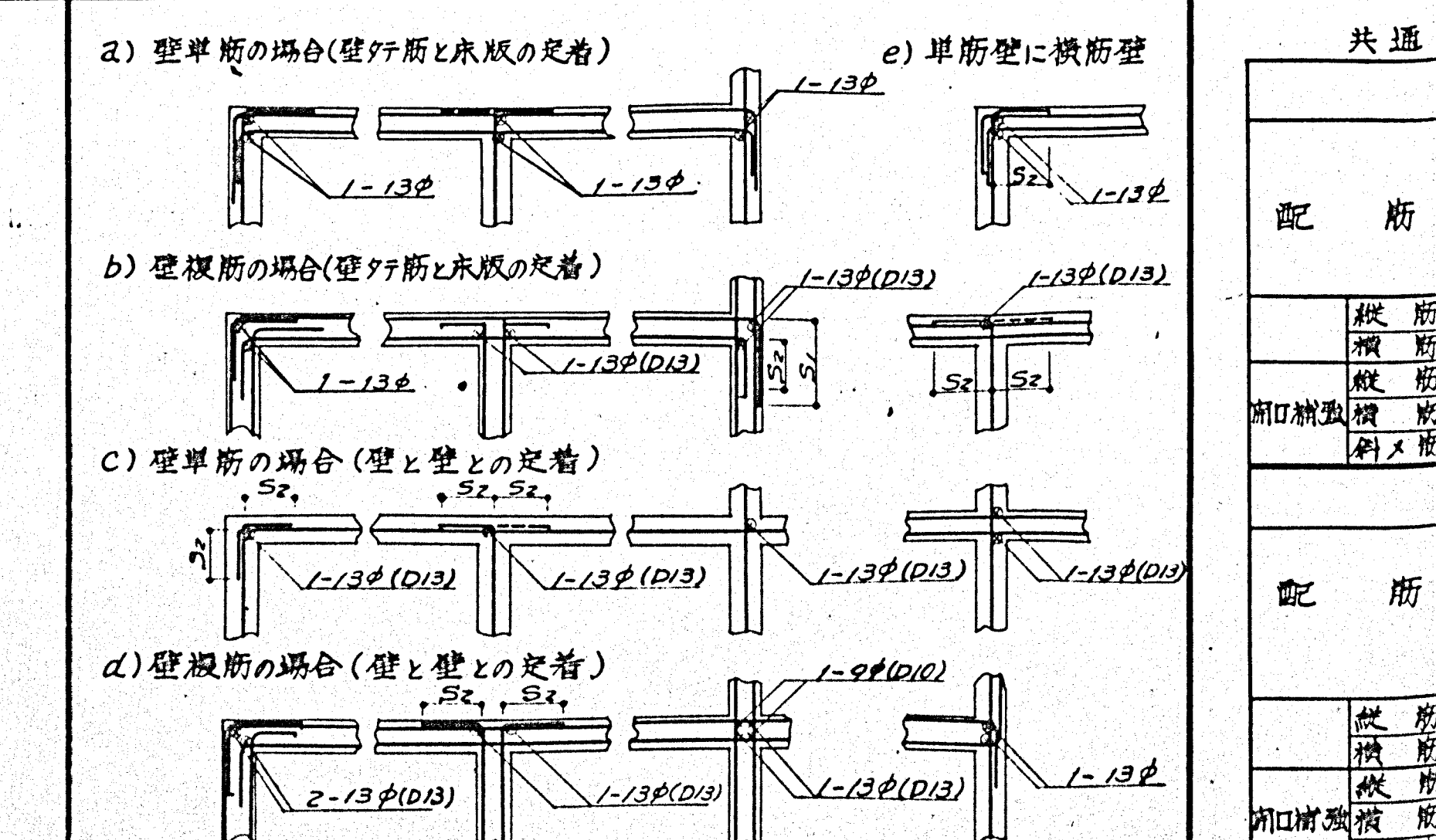


3

3-1 壁筋の定着



3-2 壁と壁の縦横筋の処理

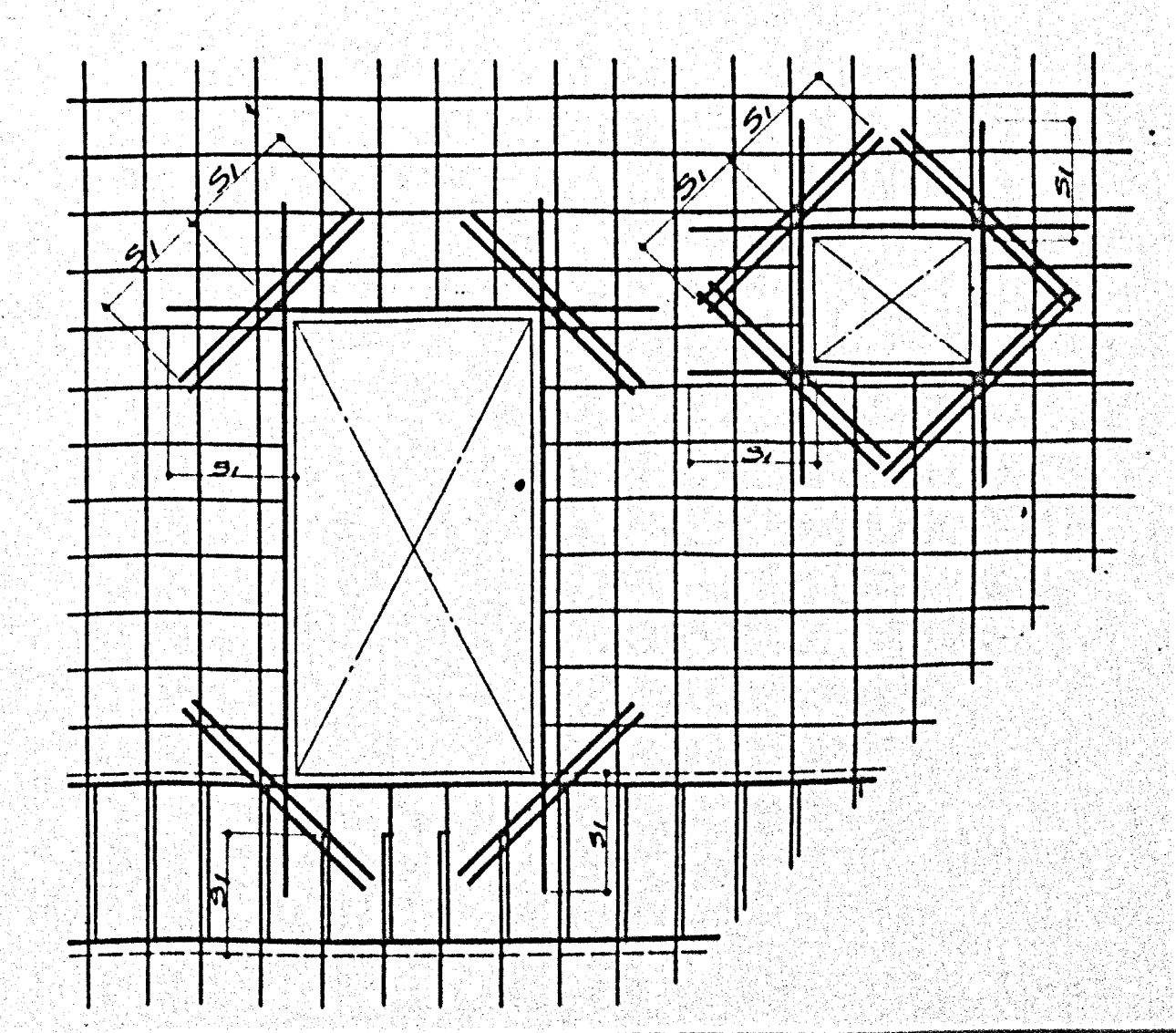


3-3 壁の標準配筋

共通事項 市止 9φ-1000 異形丸鋼の別は構造仕様による。

配筋	ブロック (t = 10)			
	W10	W15	W20	W25
縦筋	9φ (D10) - 400 @	9φ (D10) - 200 @ シンテ	9φ (D10) - 150 @ シンテ	9φ (D10) - 100 @ シンテ
横筋	9φ (D10) - 600 @	9φ (D10) - 200 @ シンテ	9φ (D10) - 150 @ シンテ	9φ (D10) - 100 @ シンテ
開口補強	1-D13	1-D13	2-D13	2-D16
斜交筋	1-D13	1-D13	2-D13	2-D16
配筋	ブロック (t = 15)			
	W12	W18	W25	W30
縦筋	9φ (D10) - 400 @	9φ (D10) - 200 @ シンテ	9φ (D10) - 150 @ シンテ	9φ (D10) - 100 @ シンテ
横筋	9φ (D10) - 600 @	9φ (D10) - 200 @ シンテ	9φ (D10) - 150 @ シンテ	9φ (D10) - 100 @ シンテ
開口補強	1-D13	2-D13	2-D13	2-D16
斜交筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D16

3-4 壁の開口補強



配筋標準図(2)

4	4-1 柱筋の定着	4-2 柱筋の継手	4-3 HOOK筋の割付	4-4 柱のふかし、柱筋のしほり方			
柱	a) 最上階 c) 最下階 b) 一般階 上階の柱筋本数の多い場合 下階の柱筋本数の多い場合	a) 直ね継手 $P \geq 35d$ $P < 35d$ b) ガス圧接 Aの範囲内に継手を設けること。 $a \geq 15d$ 且つ $25mm$ $a > 400$	a) 梁成の同じ場合 b) 梁成の異なる場合 c) 2段筋の保持 6φ以上使用 各階3ヶ所 通常のフック配筋が非常に困難な場合には左図の割りフックとする。	主筋のフックのつけ方 柱筋のしほり方 a. 普通鉄筋は全てフック付とする。 b. 異形鉄筋は下記以外を除きフックを付けない。 i) 柱、梁の出隅部分(角形鉄筋フック必要)。 ii) 片持梁及び片持スラブの先端。 iii) 特に指示された部分。			
5	5-1 大梁の定着	5-2 大梁の継手と余長	5-3 スターラップ筋の割付	5-4 スターラップ、巾止メ筋の加工	5-5 片持梁筋の先端処理	5-6 小梁筋の定着	5-7 梁のフカシ
梁	最上階 $a < D/3$ 一般階 $B/A < 1/5$ $B/A > 1/5$	上端筋継手はA部に、下端筋継手はB部内に設けること。 鉄筋を2本以上止める場合	a) 端部と中央部の配筋間隔が等しい場合 b) 端部と中央部の配筋間隔が異なる場合	a 鉄筋(腰筋) b 鉄筋(巾止筋) c 鉄筋(巾止筋)	a) 先端に小梁のある場合 立断面 平断面 b) 先端に小梁のない場合	上筋-S1 下筋-S2 水平アンカー 大梁のスターラップ 小梁市200以上の場合 小梁主筋面にもスターラップを入れる。	スターラップ $9\phi(D/10) - @200$ 腰筋 梁成600以上は2-D/10(9φ)以上 梁成1500以上は2-D/13(13φ)以上
5	5-8 壁筋の定着及び配筋	5-9 梁貫通の補強	6 基礎・繫梁	6-1 繫梁筋の定着と補強	6-2 基礎	6-3 壁筋違筋	
梁	梁、柱への定着及び配筋	i) $\phi \leq 100$ ii) $100 < \phi < 150$ (但し梁深の1/4以下とする) iii) $150 < \phi \leq 200$ (但し梁深の1/3以下とする) iv) 200φ以上の場合は係員の承認を得る事。	a. 定着 $a \leq D/3$ b. 補強(基礎下端と繫梁下端とが一致しない場合)	i) 枕頭ハッチ部分を壊し、鉄筋aとbの如く曲げて定着する。その定着長さはS2以上とする。 ii) 枕を所定の位置に打ち振った場合は監督係員の指示により底盤コンクリートの大きさと補強筋を決定し施工する。	梁及び柱にアンカーのこと 3-D/13(13φ) 3-D/13(13φ) 壁面-WxHx3Mx3M以上の場合		

JOB NAME KKビルディングアー間西大和郡山店新築工事		JOB NO.	
DWG. NAME 配筋標準図(2)		SCALE	
DES.	DWG.	CKD.	SHEET NO.
APR.	DATE	REV.	S-22

配筋標準図 (3)

6 6-4 基礎梁に段差のある場合

7-1 煙突の配筋

7-2 集水ピットの配筋

7-3 パラペットの配筋

7 7-4 受水槽の配筋

① GL-2000 程度の受水槽 (建物内に設ける場合)

② GL-3500 程度の受水槽 (受水槽 独立の場合)

7-5 ブロック受地中梁

7-6 水勾配の配筋

a) 屋根で水勾配がある場合

b) アーク溶接の継手の形状

7-7 ブロック帳壁(内壁)の配筋

規模

(1) 壁体の上下または左右の向きあった2辺以上の周辺が主要な構造部分に固定されているものについては主要な固定間隔は3.5m以下であること。
(2) 壁体の下辺または下辺とそれに隣接する辺のみが主要な構造部分に固定されているものについては、そのブロック構造部分の幅は200mm以下であること。(例 C, D) L ≧ 2.0m 補強筋の継手および足着長さ
地盤からの高さ200mmを超える部材の主筋は溶接する場合は継手を設けてはならない。鉄筋の継手および足着長さは下表による。

構造部分		継手、足着部の長さ	
継手	足着	普通 棒鋼	異形棒鋼
引張力の大きい開口部の周囲	規模(2)の主筋開口部補強筋	40d	40d
その他	その他	30d	20d

壁厚および補強筋(開口部周囲および自由端部3φを入れる。)

規模	壁厚	主筋	配筋
(1)	100mm以下	9φ-800c.t.c	9φ-1000c.t.c

規模	壁厚	主筋	配筋
(2)	100mm以下	9φ-800c.t.c	9φ-800c.t.c

8 8-1 ガス圧接・アーク溶接継手

a) ガス圧接

ガス圧接の作業は技量資格検定に合格した者に限る。その作業範囲は下表による。

資格種別	SR24	SD24	SD30	SD35	SD40	作業可能棒径
NAK 1種	○					32mm以下
NAK 2種	○	○				32mm以下
NAK 3種	○	○	○			32mm以下
NAK 5種	○	○	○	○		42mm以下

NAK: 日本圧接協会

圧接の形状

H: 1.4D ~ 1.6D
L: 0.9D ~ 1.2D

有きなきが判れ、傷心(1/10以上)があればならない。

8-2 特殊スターラップ

a) 3本以上のスターラップ

b) 基礎梁の大きな場合

スターラップ末端部は交互にする。

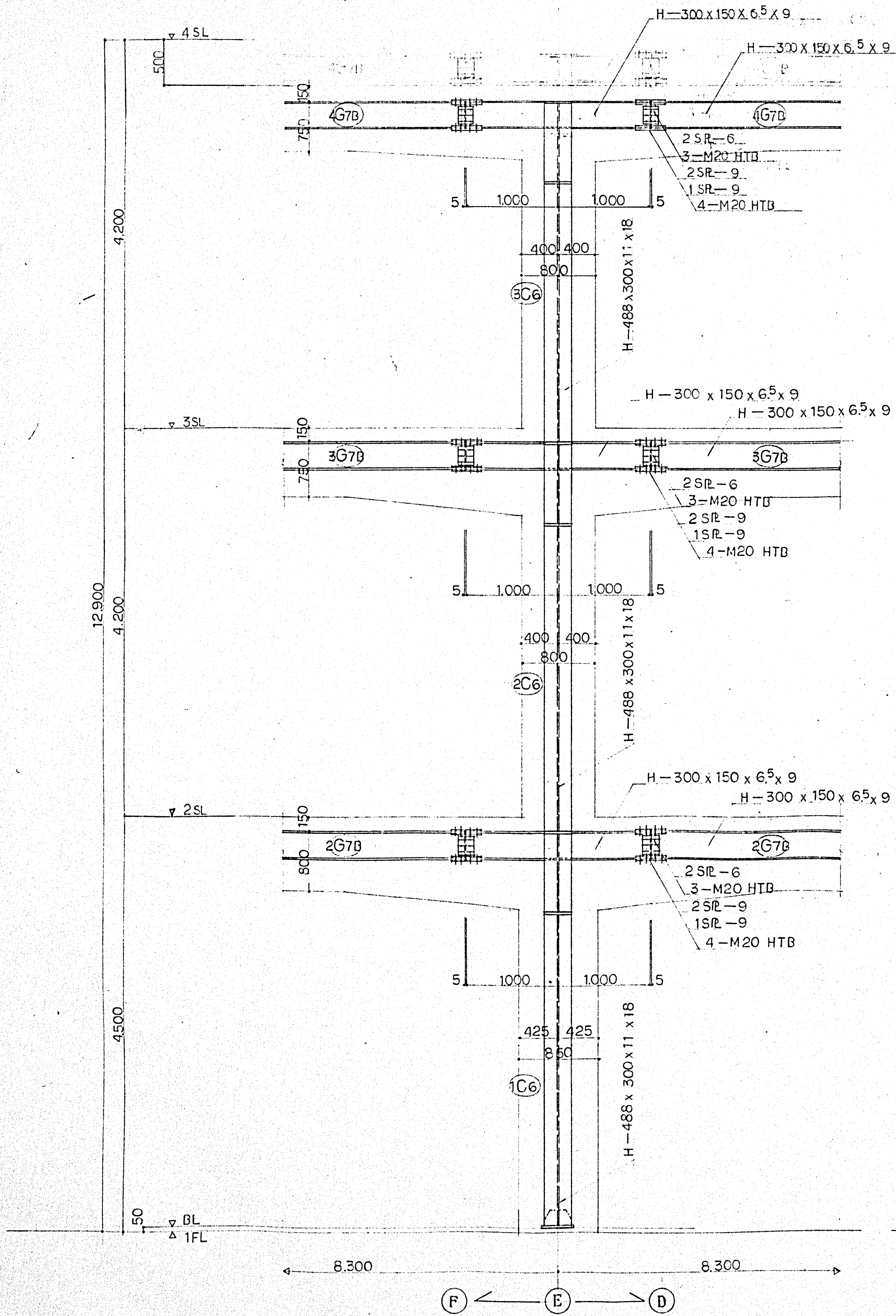
8-3 平面上で梁心が違う場合

(注) 立体的になっている場合は適用しない。

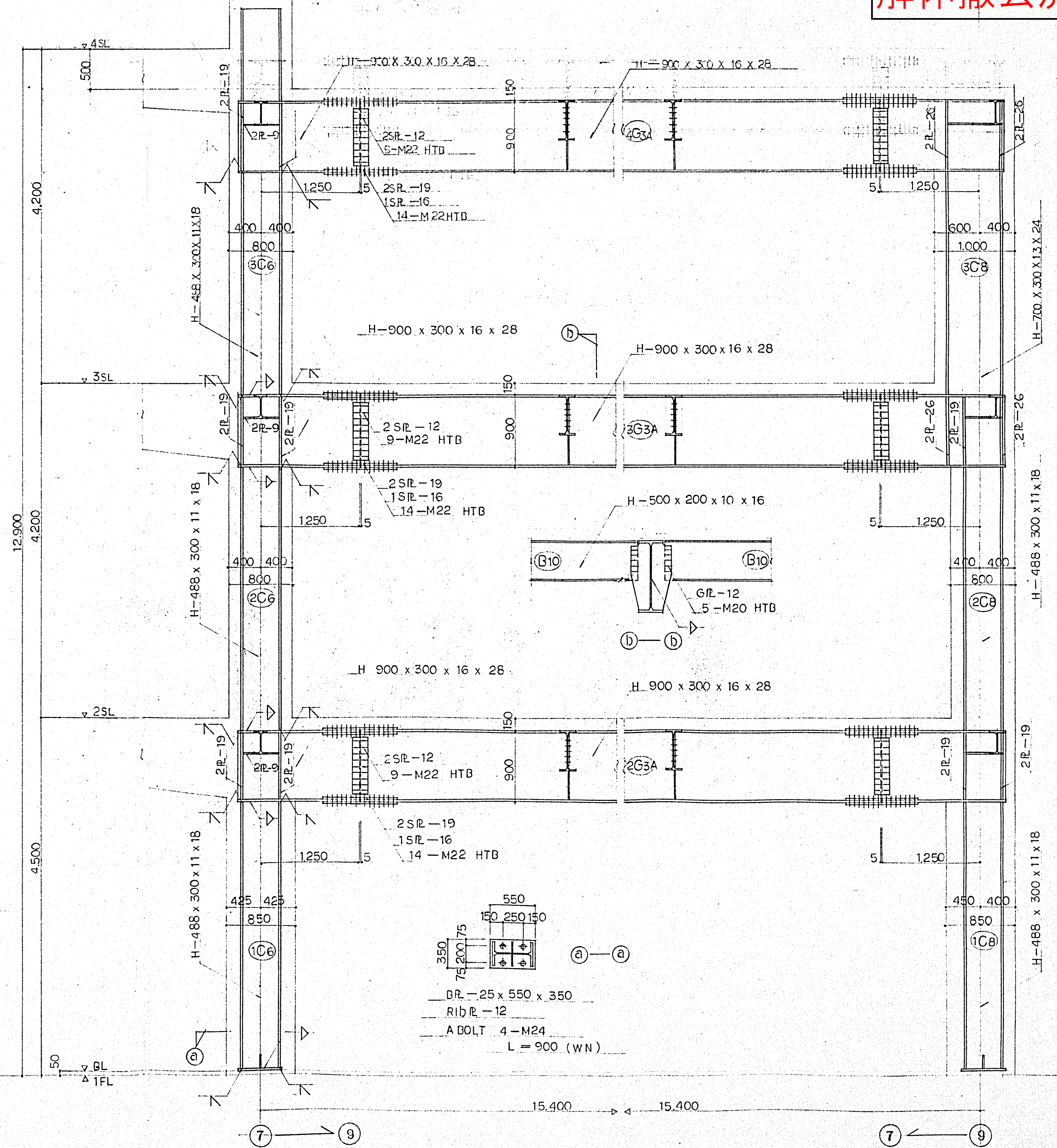
①のスターラップは一般スターラップ9φのときは、13φ、13φのときは2-13φとする。

8-4 スラブ筋端部の定着

① 梁幅が大でスラブ筋の端部定着が充分な場合スラブ筋は折り曲げなくてもよい。
② スラブ筋の足着位置は梁より外側で折り曲げる。



7F 鉄骨詳細図 1/30



7F 鉄骨詳細図 1/30

JOB NAME		JOB NO.	
KKI 日本ストア 大和郡山店新築工事			
DWG. LABEL		SCALE	
⑦ 鉄骨詳細図		S = 1/30	
DSC.		SHEET NO.	
APR.		S-24	

§ 1 一般事項

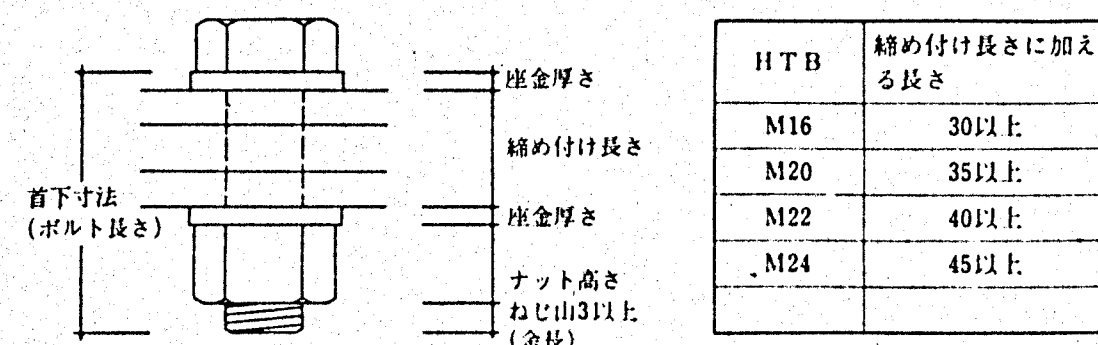
1-2
その他

- 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
- 本標準図における単位はすべてmmとする。
- 精度に関しては「鉄工工事精度標準(日本建築学会編)」による。

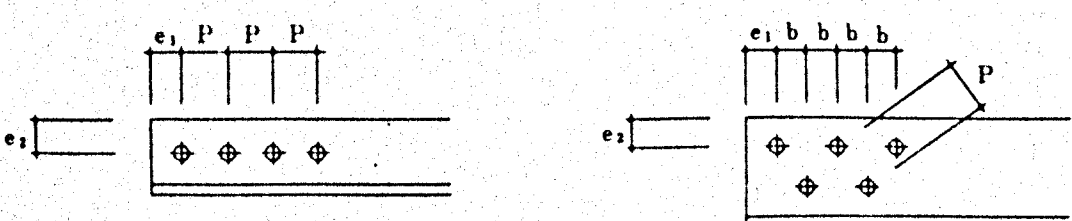
§ 2 共通事項

- | | | | |
|--------------------|------------|--------|-----------|
| ○A B | アンカーボルト | ○B H | 組立てH形鋼 |
| ○B B | ベスプレート | ○C H B | チェッカープレート |
| ○C B | カバープレート | ○F H | フラットバー |
| ○F B | フランジプレート | ○G B | ガセットプレート |
| ○H T B | 高力ボルト | ○S B | スプライスプレート |
| ○T B | ターンバックル | ○W B | ウェブプレート |
| ○W ₁ -1 | 溶接記号(§4参照) | | |

§ 3 ボルト接合

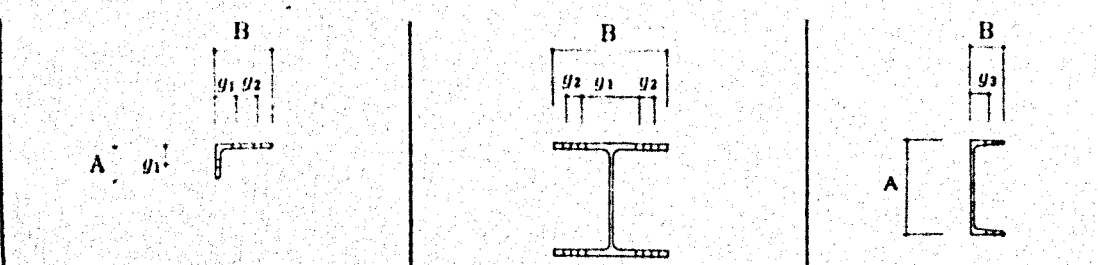


- HTBはすべてF10Tを使用し、スベリ係数は0.45とする。
- ボルト接合面の処理
締め付け摩擦面は母材に於いては平グライNDER掛け、スプライスプレートに於いてはシ
ョット掛けを行ない、黒皮を除去し様に赤さびを生じさせる。



呼び 径			M 16	M 20	M 22	M 24
孔 径			17.0	21.5	23.5	25.5
ピッチ	標準 (3.04)	P	50	60	70	80
	最小 (2.04)		40	50	55	60
は し おき	(2.04)	e ₁	35(40)	40(50)	45(55)	50(60)
へ り おき	(1.54)	e ₂	25	30	35	40

()内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

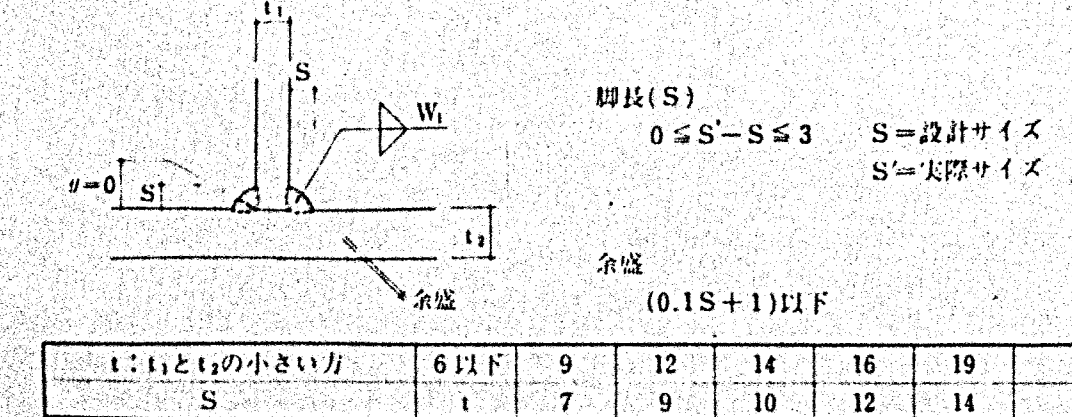


ノール	g ₁	g ₂	最大軸径	目	g ₁	g ₂	最大軸径	目	g ₁	最大軸径	
※ 50	30		16	※ 100	60		16	※ 50	30	16	
	60	35	16		125	75	16		65	35	20
	65	35	20		150	90	22		70	40	20
	70	40	20		175	105	22		75	40	22
	75	40	22		200	120	24		80	45	22
	80	45	22		250	150	24		90	50	24
	90	50	24	※ 300	150	40	24		100	55	24
	100	55	24		350	140	70	24			
	125	50	35	24	400	140	90	24			
	130	50	40	24							
	150	55	55	24							
	175	60	70	24							
	200	60	90	24							

※ 目=300は千鳥打とす。
 ※ 印の欄のgおよび最大軸径の値は強度上支障がないと
 ※ 最大軸径の規定にかかわらず用いることができる

* B=300は千鳥打ちとする。
 ** 印の欄の r および最大軸径の値は強度上支障がないと最小軸端距離の規定にかかわらず用いることができる

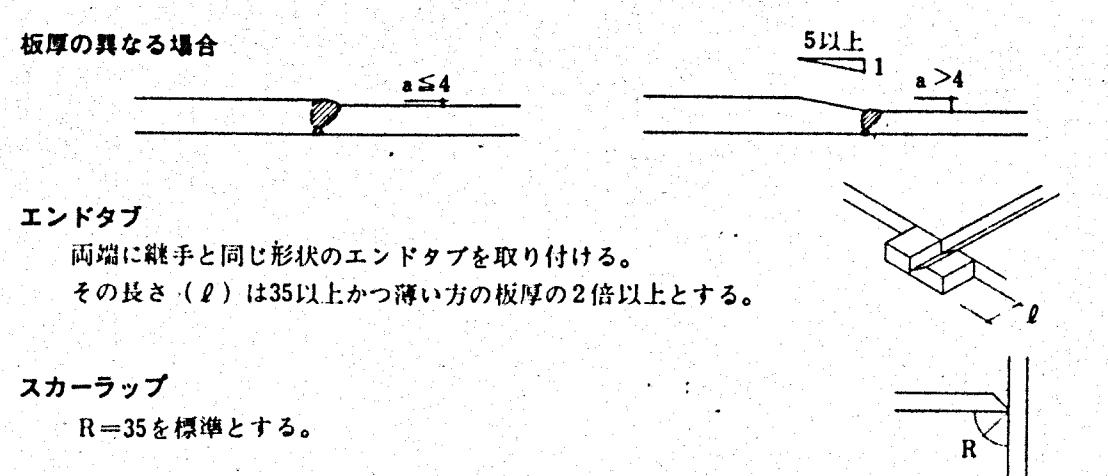
§ 4 溶接接合



4-1
腐肉溶解

4-2
突合せ溶接

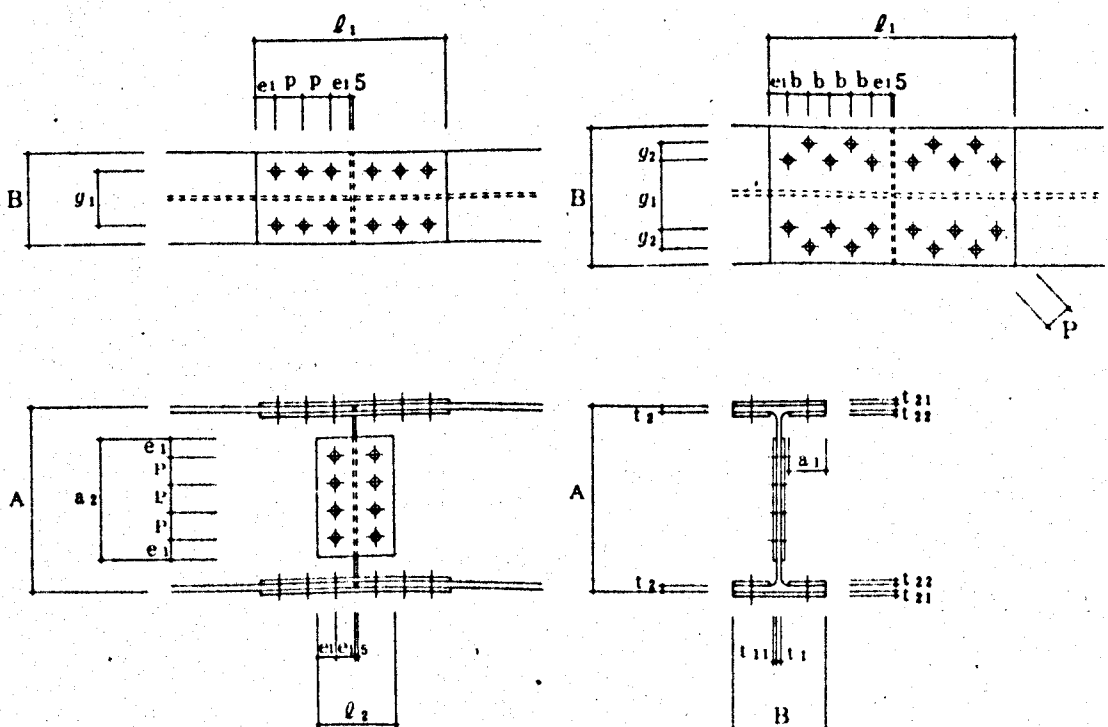
4-3
開先形狀



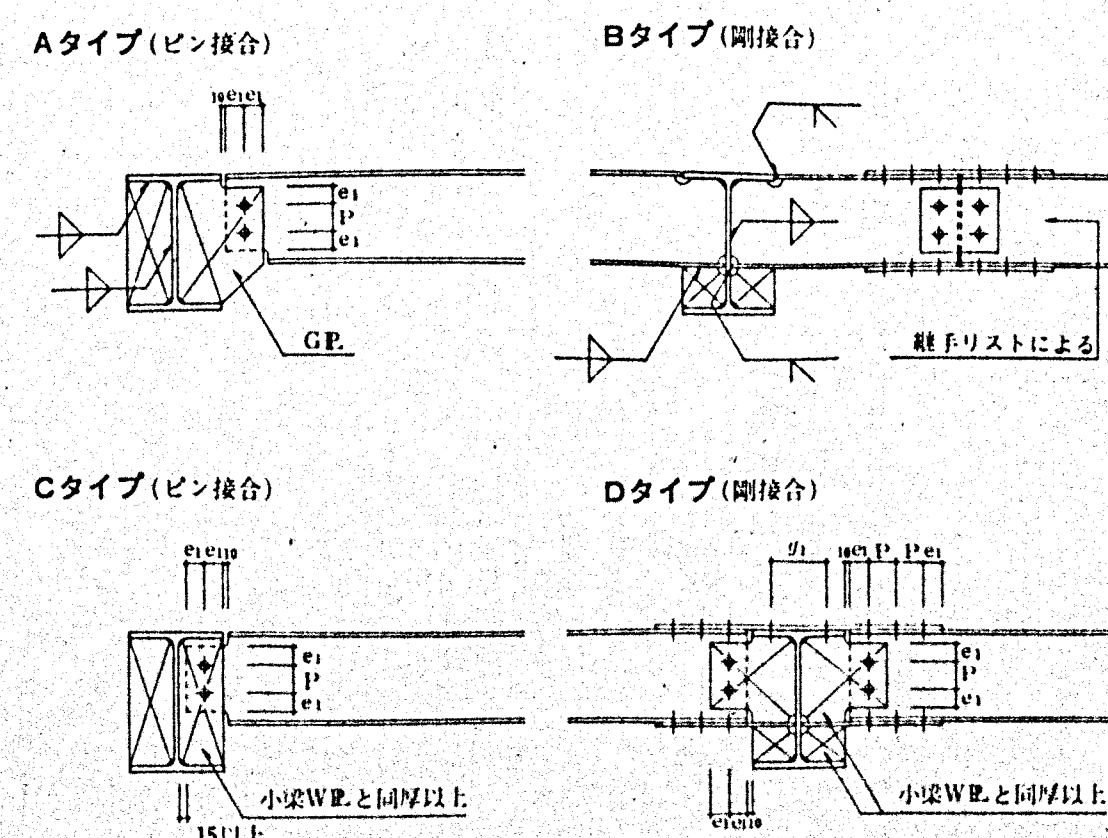
記 号	形 状	適用板厚	寸 法
W ₂ (MC-BL-B1)		6 < t ≤ 12	$g \quad 6 \pm \frac{t}{2}$ $r \quad 2$ $\alpha_1 \quad \approx 45^\circ$
		12 < t ≤ 32	$g \quad 9 \pm \frac{t}{6}$ $r \quad 2$ $\alpha_1 \quad \approx 35^\circ$
W ₃ (MC-BL-2)		6 < t ≤ 19	$g \quad 0 \pm \frac{t}{6}$ $r \quad 2$ $\alpha_1 \quad \approx 45^\circ$
			$g \quad 0 \pm \frac{t}{6}$ $d_1 \quad \frac{1}{3}(t-r)$ $r \quad 2$ $d_2 \quad \frac{1}{3}(t-r)$ $\alpha_1 \quad \approx 45^\circ$ $\alpha_2 \quad \approx 60^\circ$
W ₄ (MC-BK-2)		19 < t ≤ 32	$g \quad 0 \pm \frac{t}{6}$ $d_1 \quad \frac{1}{3}(t-r)$ $r \quad 2$ $d_2 \quad \frac{1}{3}(t-r)$ $\alpha_1 \quad \approx 45^\circ$ $\alpha_2 \quad \approx 60^\circ$
W ₅ (MC-B1-B1)		t ≤ 6	$g \quad 5 \pm 1$

。上図は手溶接の隅肉又は完全溶込みグループ溶接の場合を示す。
但し、半自動溶接および自動溶接にて施工する場合は別途指示とする。

§ 5 継手

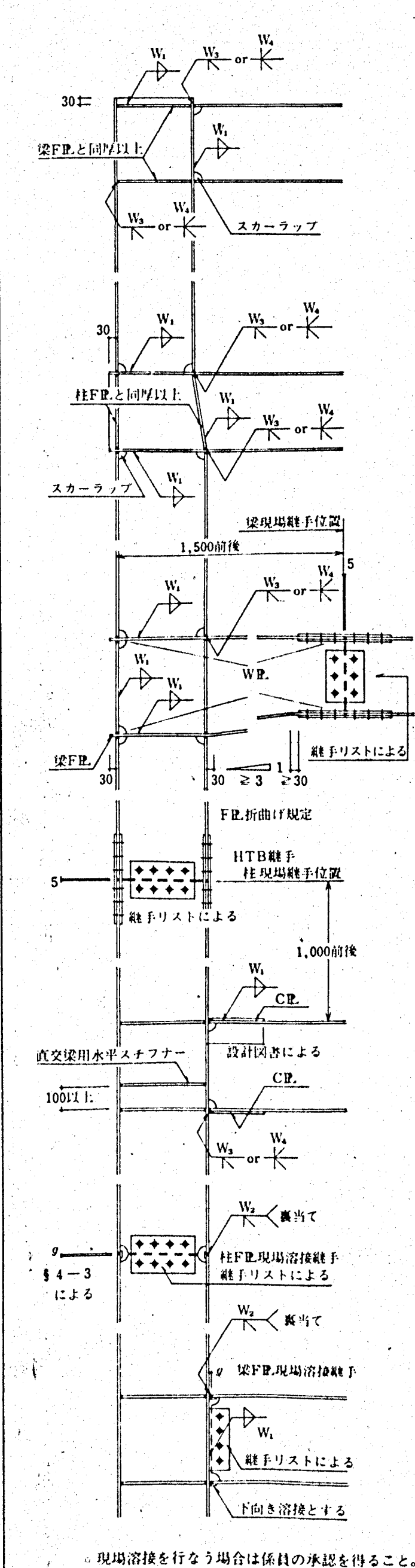
[illegible]

フィラープレート
 DR, WR面で段差が1以上の場合は
 フィラープレートを入れる。

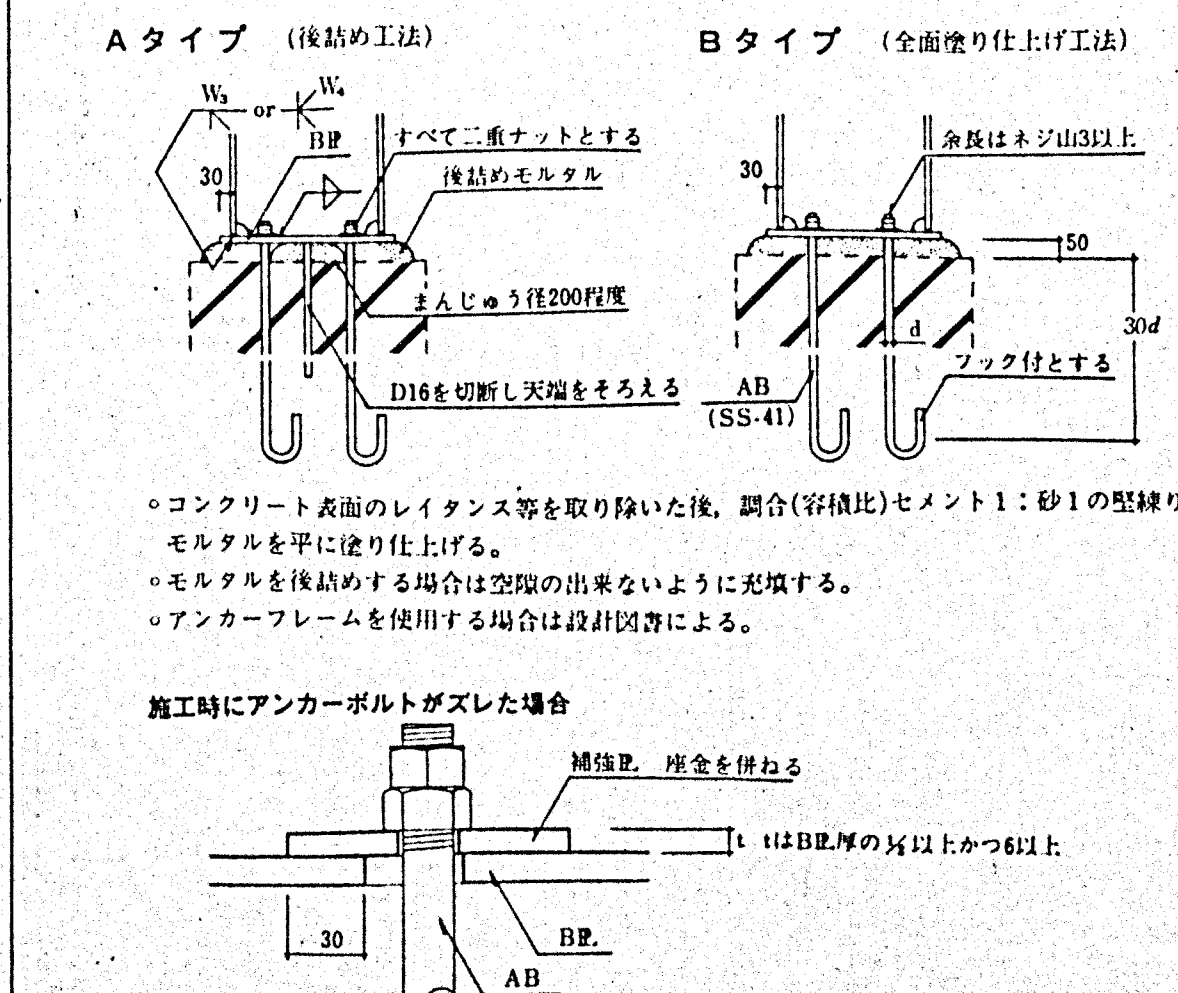


5-2
仕目リスト

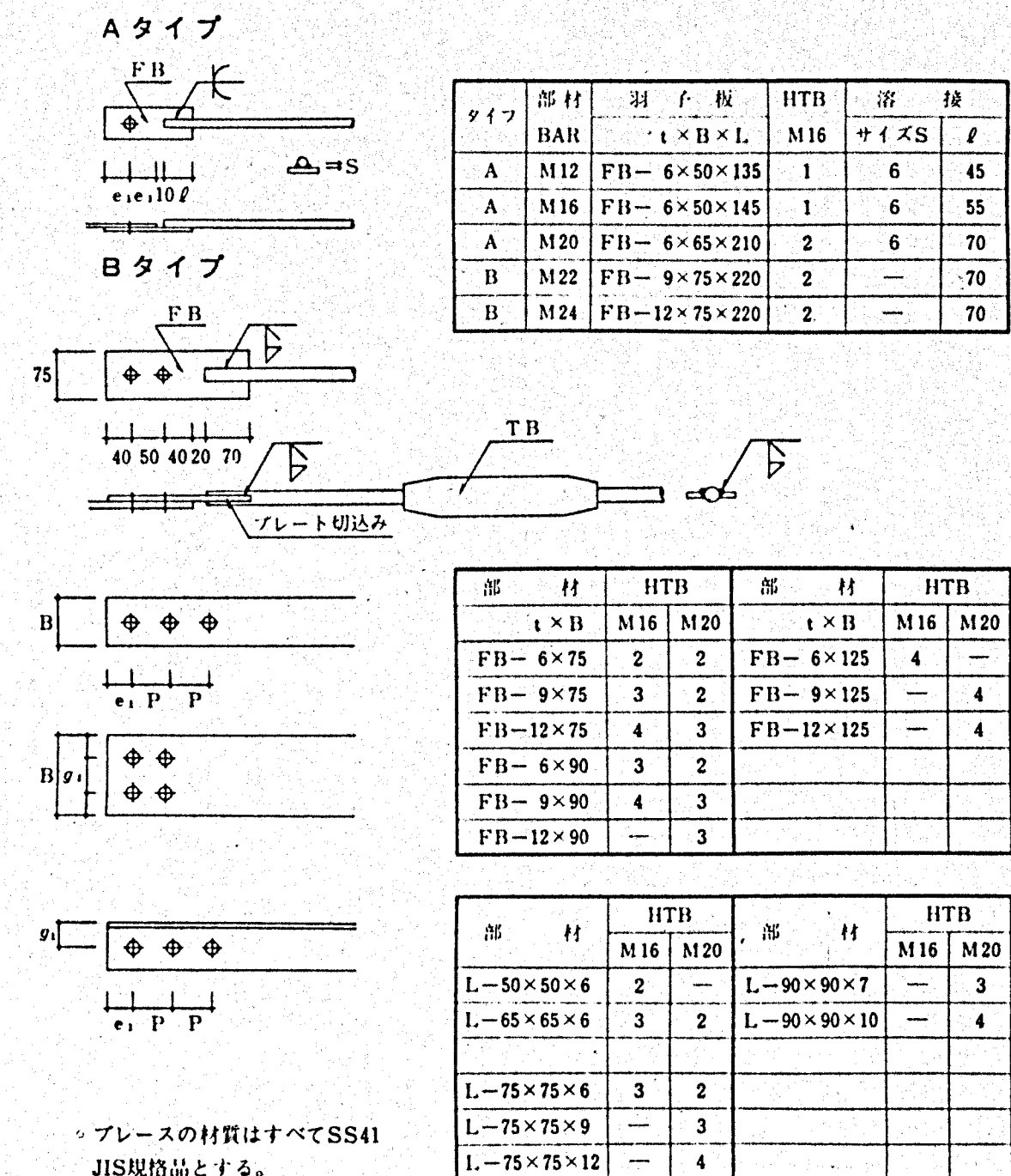
§ 6 柱梁接合部および継手



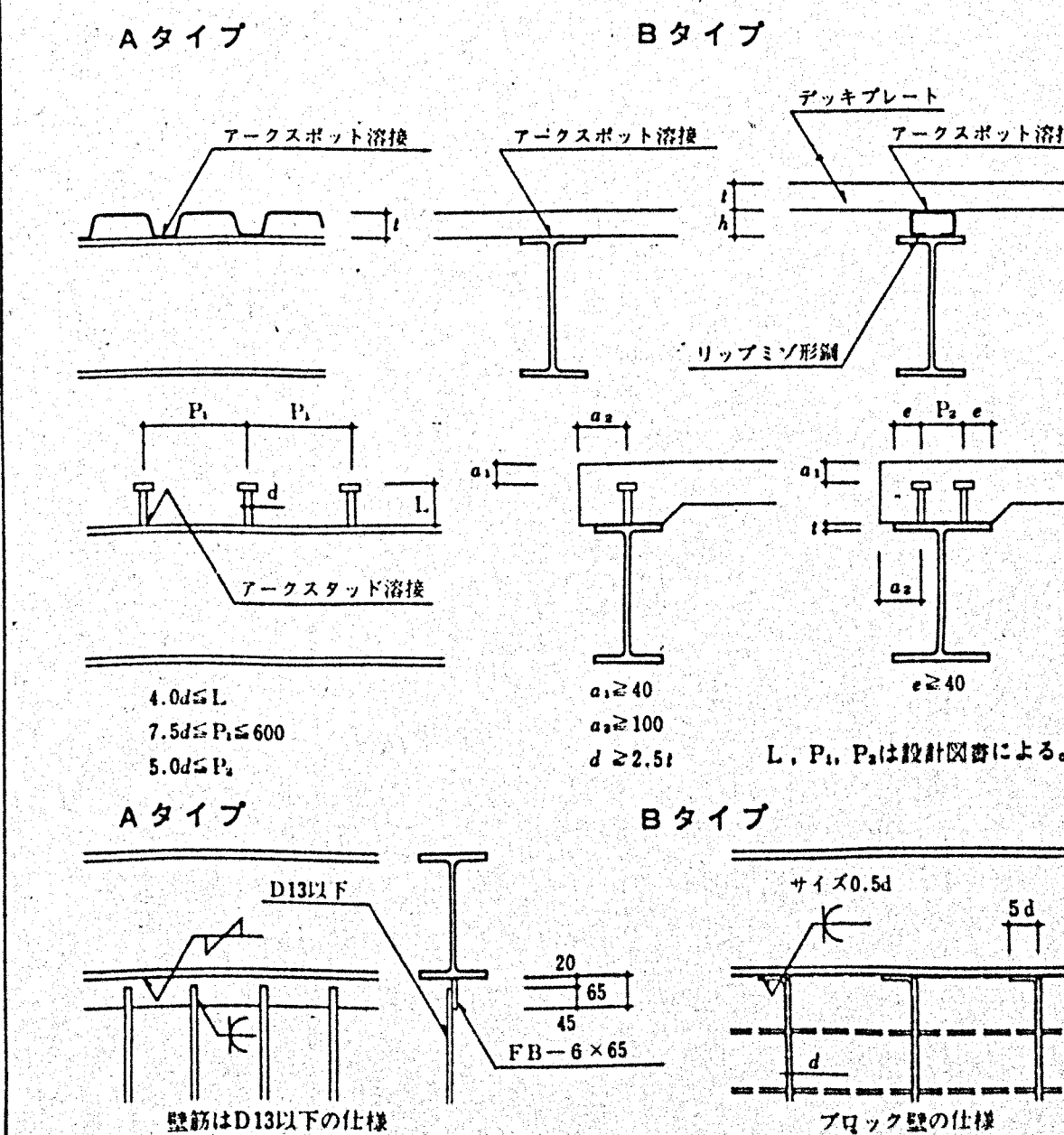
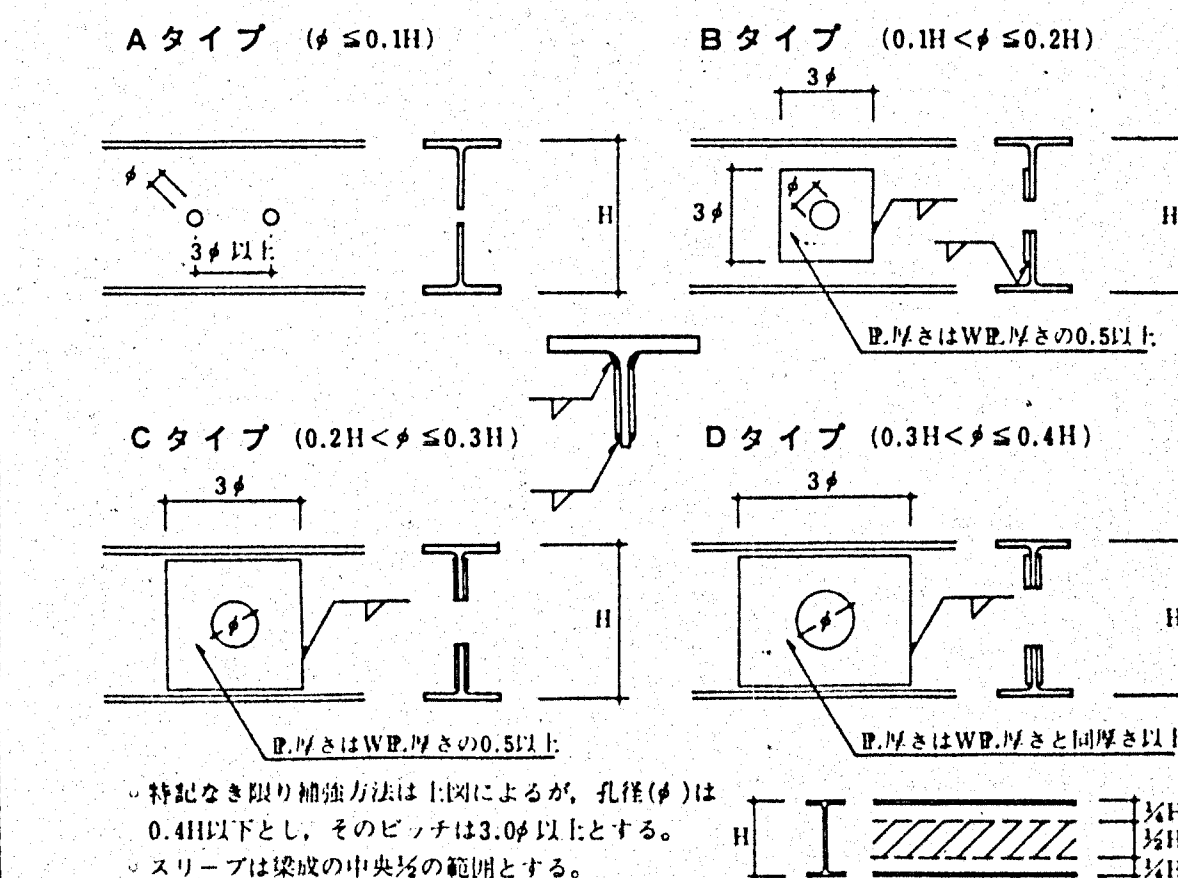
§ 7 柱 脚



§ 8 ブレース

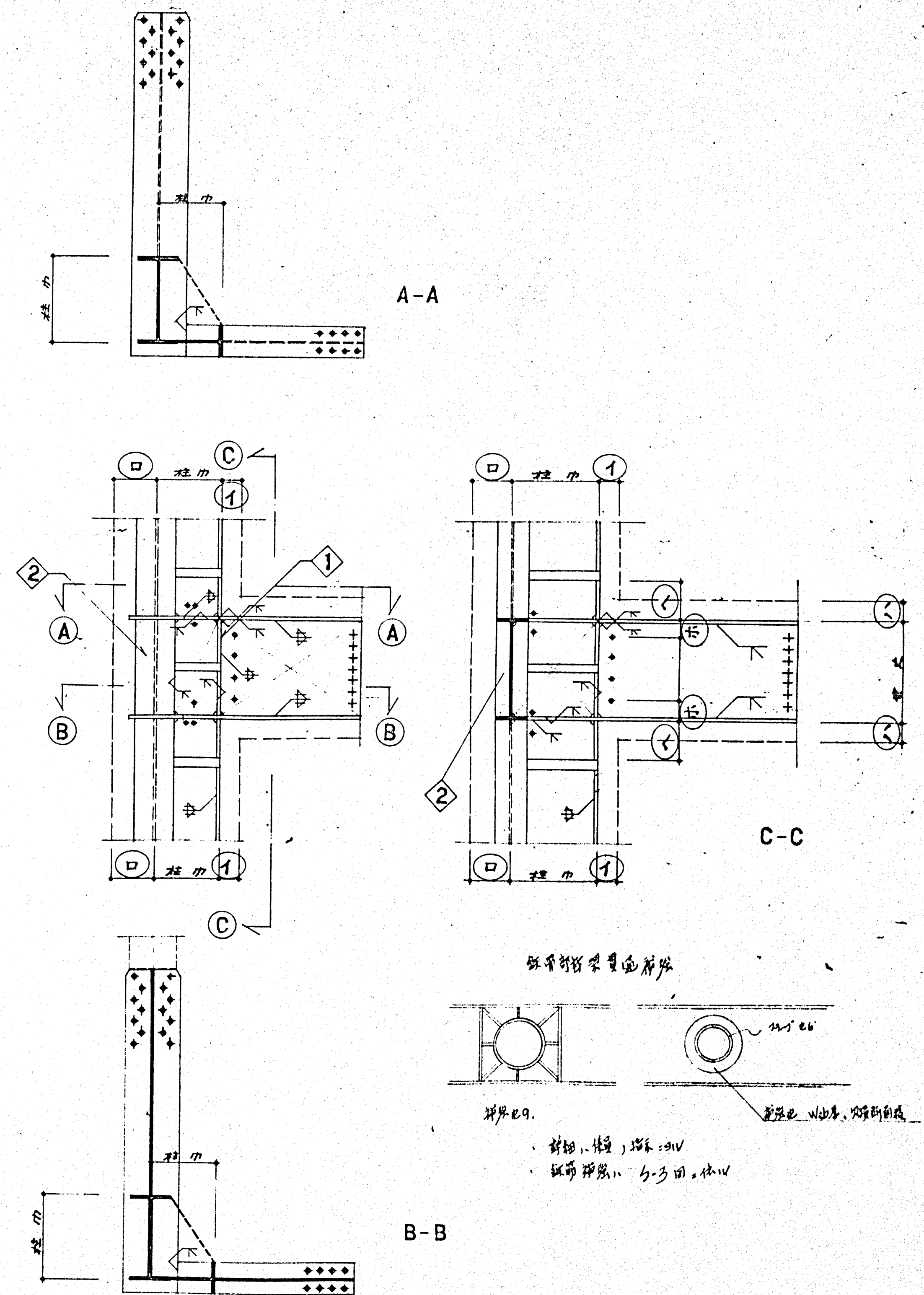


§ 9 その他



1		I型突合せ溶接	2		V型突合せ溶接	3		X型突合せ溶接	4		V型突合せ溶接	5		K型突合せ溶接	6		V型突合せ溶接						
$t \leq 6$ 			$t_2 = t_1$ 又は $t_2 < t_1 + 4\%$ の場合 $t_2 \geq t_1 + 4\%$ の場合 			$t_2 = t_1$ 又は $t_2 < t_1 + 4\%$ の場合 $t_2 \geq t_1 + 4\%$ の場合 									$t_1 \leq 19$ の場合 $r=7$ $\theta \geq 45^\circ$ $t_1 > 19$ の場合 $r=9$ $\theta \geq 35^\circ$ 								
7		V型突合せ溶接	8		V型突合せ溶接	9		K型突合せ溶接	10		V型突合せ溶接	11	2~10の溶接部は母材と同厚のエンドタブを設け		12		隅肉溶接						
$t_1 \leq 19$ の場合 $r=7$ $\theta \geq 45^\circ$ $t_1 > 19$ の場合 $r=9$ $\theta \geq 35^\circ$ 																							
13		断続隅肉溶接	14		隅肉溶接 (重ね継手)	15		隅肉溶接	16		K型突合部分溶込溶接	17		フレア-V型グループ溶接	18		フレア-V型グループ溶接						
① 隅肉(S) 溶接長(L) と溶接ピッチ P は下記のとおり。 			② 脚長(S)決定は詳細 12 に従う。 						イ: 一般 ロ: 継手及仕口で軸方向力の伝達を目的とする場合 														
19		フレア-X型グループ溶接	20		フレア-K型グループ溶接	21		フレア-X型グループ溶接	22 柱脚 H 型鋼使用の場合 裏はツリが出来ない場合 裏はツリ継ぎ溶接が出来ない場合 														
溶接に使用する材料の寸法 			鉄筋と鋼板の溶接 			鉄筋と鋼板の溶接 			柱脚 H 型鋼使用の場合 裏はツリが出来ない場合 裏はツリ継ぎ溶接が出来ない場合 														

鉄筋溶接は製造検査時に
溶接検査員により検査を行う
① 溶接 () 外の検査員は、
事前に検査員の承認を受けること



検査時、検査官は、検査結果を記録し、検査結果を公表する。

(注) 検査の結果、検査官が検査結果を公表しない場合は、検査官の判断による。検査官は、検査結果を公表しない場合、検査結果を公表しない理由を説明する。

H型鋼継手リスト

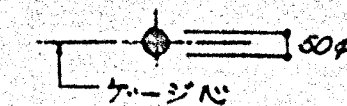
(高力ボルト F11T, U=0.45)
(100kgf/cm²以上)

注意事項

2. 適用範囲

3. 接合部の処理

曲げ材 (太梁、トラスの弦材)、圧縮材 (柱)、せん断継手 (小梁、間柱)
スライダ、ショットアラストは、それと同等以上の仕上とし、赤錆の状態にて納付する。
処理範囲はボルト孔まわりの最小限 50φとする。(右図参照)



H-150×150×7×10 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×45×305 SR内 4R-9×55×305 H.T.B 4-M16 SR 2R-6×445×80 H.T.B 3-M16	H-175×175×75×11 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×170×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×445×80 H.T.B 3-M19	H-194×150×6×9 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×145×305 SR内 4R-6×55×305 H.T.B 4-M16 SR 2R-6×305×140 H.T.B 4-M16	H-200×100×55×8 7 1 2 3 4 5 6 7 SR 2R-6×305×140 H.T.B 4-M16	H-200×200×8×12 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×195×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×305×140 H.T.B 4-M19	H-244×175×7×11 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×170×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×305×140 H.T.B 4-M19
H-250×125×6×9 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×120×305 SR内 4R-6×45×305 H.T.B 4-M16 SR 2R-6×305×140 H.T.B 4-M16	H-250×250×9×14 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-9×230×445 SR内 4R-12×80×445 H.T.B 6-M19 SR 2R-6×305×140 H.T.B 4-M19	H-294×200×8×12 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×195×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×165×220 H.T.B 3-M19	H-300×150×6.5×9 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×145×305 SR内 4R-6×55×305 H.T.B 4-M16 SR 2R-6×305×140 H.T.B 4-M16	H-300×300×10×15 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-9×290×425 SR内 4R-12×100×425 H.T.B 6-M22 SR 2R-9×165×220 H.T.B 3-M22	H-340×250×9×14 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-9×230×445 SR内 4R-12×80×445 H.T.B 6-M19 SR 2R-9×305×140 H.T.B 4-M19
H-346×174×6×9 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×170×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×165×290 H.T.B 4-M19	H-350×175×7×11 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×170×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×165×290 H.T.B 4-M19	H-350×350×12×19 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-12×290×555 SR内 4R-12×100×555 H.T.B 8-M22 SR 2R-9×305×220 H.T.B 5-M22	H-390×300×10×16 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-9×290×425 SR内 4R-12×100×425 H.T.B 6-M22 SR 2R-9×165×290 H.T.B 4-M22	H-396×199×7×11 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×195×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×165×290 H.T.B 4-M19	H-400×200×8×13 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-6×195×305 SR内 4R-9×65×305 H.T.B 4-M19 SR 2R-6×165×290 H.T.B 4-M19
H-400×400×13×21 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-12×380×305 SR内 4R-16×150×305 H.T.B 8-M22 SR 2R-9×165×290 H.T.B 4-M22	H-440×300×11×18 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-12×290×555 SR内 4R-12×100×555 H.T.B 8-M22 SR 2R-9×165×360 H.T.B 5-M22	H-450×200×9×14 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-9×195×305 SR内 4R-12×65×305 H.T.B 4-M22 SR 2R-6×165×360 H.T.B 5-M22	H-488×300×11×18 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-12×290×555 SR内 4R-12×100×555 H.T.B 8-M22 SR 2R-9×165×360 H.T.B 5-M22	H-500×200×10×16 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-12×195×305 SR内 4R-12×65×305 H.T.B 4-M22 SR 2R-9×165×360 H.T.B 5-M22	H-588×300×12×20 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-14×290×555 SR内 4R-14×100×555 H.T.B 8-M22 SR 2R-9×305×430 H.T.B 10-M22
H-594×302×14×23 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-16×290×685 SR内 4R-16×100×685 H.T.B 10-M22 SR 2R-9×305×430 H.T.B 10-M22	H-600×200×11×17 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-12×195×305 SR内 4R-12×65×305 H.T.B 4-M22 SR 2R-9×305×430 H.T.B 10-M22	H-606×201×12×20 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-14×195×445 SR内 4R-12×65×445 H.T.B 6-M22 SR 2R-9×305×430 H.T.B 10-M22	H-692×300×13×20 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-14×290×555 SR内 4R-14×100×555 H.T.B 8-M22 SR 2R-9×305×300 H.T.B 12-M22	H-792×300×14×22 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-16×290×685 SR内 4R-16×100×685 H.T.B 10-M22 SR 2R-9×305×640 H.T.B 14-M22	H-890×299×15×23 7 1 2 3 4 5 6 7 SR外 2R-16×290×685 SR内 4R-16×100×685 H.T.B 10-M22 SR 2R-9×305×710 H.T.B 16-M22

KK西友ストア関西大和郡山店新築工事

継手リスト ①

SCALE

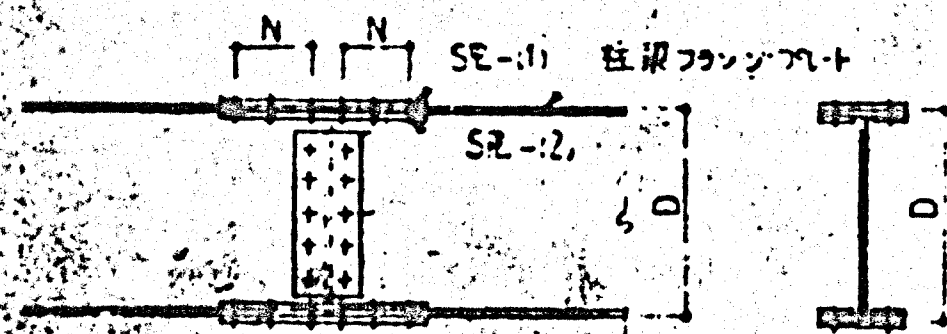
SHEET NO.

S-28

株式会社 極東設計事務所 株式会社 吉村建築事務所

高力ボルト		SS41	
FR-7x7	ボルト	添え板SR-(1)	添え板SR-(2)
FR-125.6	M16	4 R-6.125.250	
FR-125.9		6 R-9.125.400	
FR-125.12		8 R-12.125.500	
FR-150.9	M20	4 R-6.150.250	2R-6.150.350
FR-150.12		4 R-8.150.350	2R-8.150.450
FR-150.16		4 R-10.150.450	2R-10.150.550
FR-150.19		6 R-12.150.550	2R-12.150.650
FR-150.22		6 R-14.150.650	2R-14.150.750
FR-150.25		6 R-16.150.750	2R-16.150.850
FR-175.9	M22	4 R-6.175.250	2R-6.175.350
FR-175.12		4 R-8.175.350	2R-8.175.450
FR-175.16		4 R-10.175.450	2R-10.175.550
FR-175.19		6 R-12.175.550	2R-12.175.650
FR-175.22		6 R-14.175.650	2R-14.175.750
FR-175.25		6 R-16.175.750	2R-16.175.850

高力ボルト		SM-50A	
FR-7x7	ボルト	添え板SR-(1)	添え板SR-(2)
FR-125.6	M16	6 R-9.125.410	
FR-125.9		10 R-14.125.650	
FR-125.12		12 R-18.125.770	
FR-150.9	M20	4 R-9.150.250	2R-9.150.350
FR-150.12		4 R-12.150.350	2R-12.150.450
FR-150.16		6 R-14.150.450	2R-14.150.550
FR-150.19		6 R-16.150.550	2R-16.150.650
FR-150.22		6 R-18.150.650	2R-18.150.750
FR-150.25		6 R-20.150.750	2R-20.150.850
FR-175.9	M22	4 R-9.175.250	2R-9.175.350
FR-175.12		4 R-12.175.350	2R-12.175.450
FR-175.16		6 R-14.175.450	2R-14.175.550
FR-175.19		6 R-16.175.550	2R-16.175.650
FR-175.22		6 R-18.175.650	2R-18.175.750
FR-175.25		6 R-20.175.750	2R-20.175.850



1. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
2. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

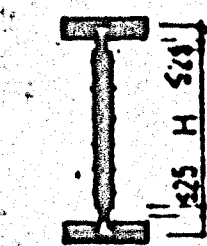
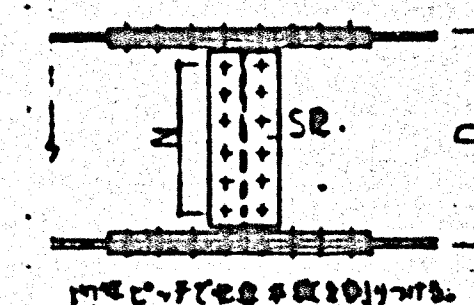
2. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
SM50A

1. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

鉄骨フランジ接合部
(プレートフランジの場合)

高力ボルト		M16		M20	
高力ボルト	ボルト	添え板SR	添え板SR	添え板SR	添え板SR
430	45 6 9	5	2R-6x150	5	2R-6x170
	12			5	2R-6x170
450	45 6 9	6	2R-6x150	6	2R-6x170
	12			6	2R-6x170
500	45 6 9	7	2R-6x150	7	2R-6x170
	12			7	2R-6x170
550	45 6 9	8	2R-6x150	8	2R-6x170
	12			8	2R-6x170
600	45 6 9	9	2R-6x150	9	2R-6x170
	12			9	2R-6x170
650	45 6 9	10	2R-6x150	10	2R-6x170
	12			10	2R-6x170
700	45 6 9	11	2R-6x150	11	2R-6x170
	12			11	2R-6x170
750	45 6 9	12	2R-6x150	12	2R-6x170
	12			12	2R-6x170
800	45 6 9	13	2R-6x150	13	2R-6x170
	12			13	2R-6x170
850	45 6 9	14	2R-6x150	14	2R-6x170
	12			14	2R-6x170
900	45 6 9	15	2R-6x150	15	2R-6x170
	12			15	2R-6x170

高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。



1. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

2. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

3. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

4. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

5. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

6. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

7. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

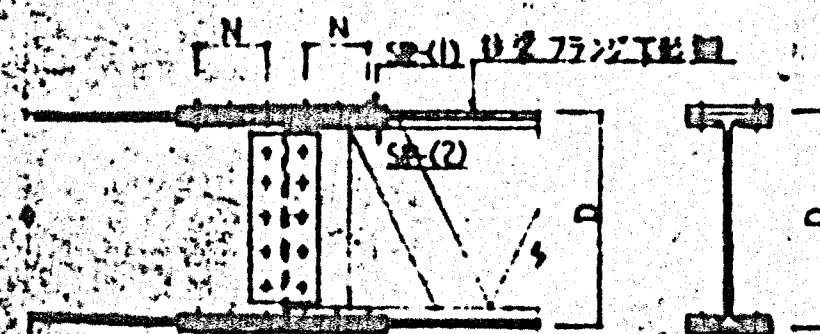
8. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

9. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

10. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

高力ボルト		SS41	
FR-7x7	ボルト	添え板SR-(1)	添え板SR-(2)
FR-125.6	M16	8 R-12.125.530	
FR-125.9		12 R-18.125.650	
FR-125.12		16 R-24.125.770	
FR-150.9	M20	4 R-6.150.250	2R-6.150.350
FR-150.12		4 R-8.150.350	2R-8.150.450
FR-150.16		6 R-10.150.450	2R-10.150.550
FR-150.19		6 R-12.150.550	2R-12.150.650
FR-150.22		6 R-14.150.650	2R-14.150.750
FR-150.25		6 R-16.150.750	2R-16.150.850
FR-175.9	M22	4 R-6.175.250	2R-6.175.350
FR-175.12		4 R-8.175.350	2R-8.175.450
FR-175.16		6 R-10.175.450	2R-10.175.550
FR-175.19		6 R-12.175.550	2R-12.175.650
FR-175.22		6 R-14.175.650	2R-14.175.750
FR-175.25		6 R-16.175.750	2R-16.175.850

高力ボルト		SM-50A	
FR-7x7	ボルト	添え板SR-(1)	添え板SR-(2)
FR-125.6	M16	8 R-12.125.530	
FR-125.9		12 R-18.125.650	
FR-125.12		16 R-24.125.770	
FR-150.9	M20	4 R-6.150.250	2R-6.150.350
FR-150.12		4 R-8.150.350	2R-8.150.450
FR-150.16		6 R-10.150.450	2R-10.150.550
FR-150.19		6 R-12.150.550	2R-12.150.650
FR-150.22		6 R-14.150.650	2R-14.150.750
FR-150.25		6 R-16.150.750	2R-16.150.850
FR-175.9	M22	4 R-6.175.250	2R-6.175.350
FR-175.12		4 R-8.175.350	2R-8.175.450
FR-175.16		6 R-10.175.450	2R-10.175.550
FR-175.19		6 R-12.175.550	2R-12.175.650
FR-175.22		6 R-14.175.650	2R-14.175.750
FR-175.25		6 R-16.175.750	2R-16.175.850



1. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

2. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

1. 高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

鉄骨フランジ接合部
(T形鋼の場合)

Web R 板厚 (mm)	4.5	6.0	9.0	12.0	14.0	16.0
高力ボルト (cm)	n x m	SR 2R5-6	n x m	SR 2R5-6 (web 9)	n x m	SR 2R5-9 (web 14)
400 ~ 450	4 x 4	b x h - 360 x 280	4 x 4	b x h - 350 x 380	4 x 6	b x h - 350 x 540
500	5 x 4	320 x 280	5 x 4	430 x 380	5 x 6	430 x 540
550 ~ 600	6 x 4	360 x 280	6 x 4	510 x 380	6 x 6	510 x 540
650 ~ 700	7 x 4	440 x 280	7 x 4	590 x 380	7 x 6	590 x 540
750	8 x 4	500 x 280	8 x 4	670 x 380	8 x 6	670 x 540
ボルトサイズ	M16	M22	M22	M22	M22	M22

1. SRはSM50Aと同等以上の引張強さを有するものを使用する。
SRはSM50Aと同等以上の引張強さを有するものを使用する。

鉄骨フランジ接合部
(T形鋼の場合)

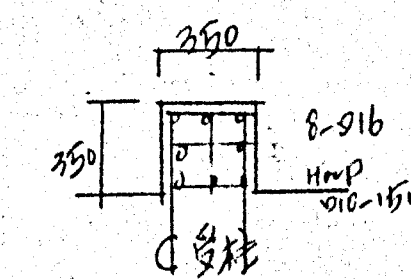
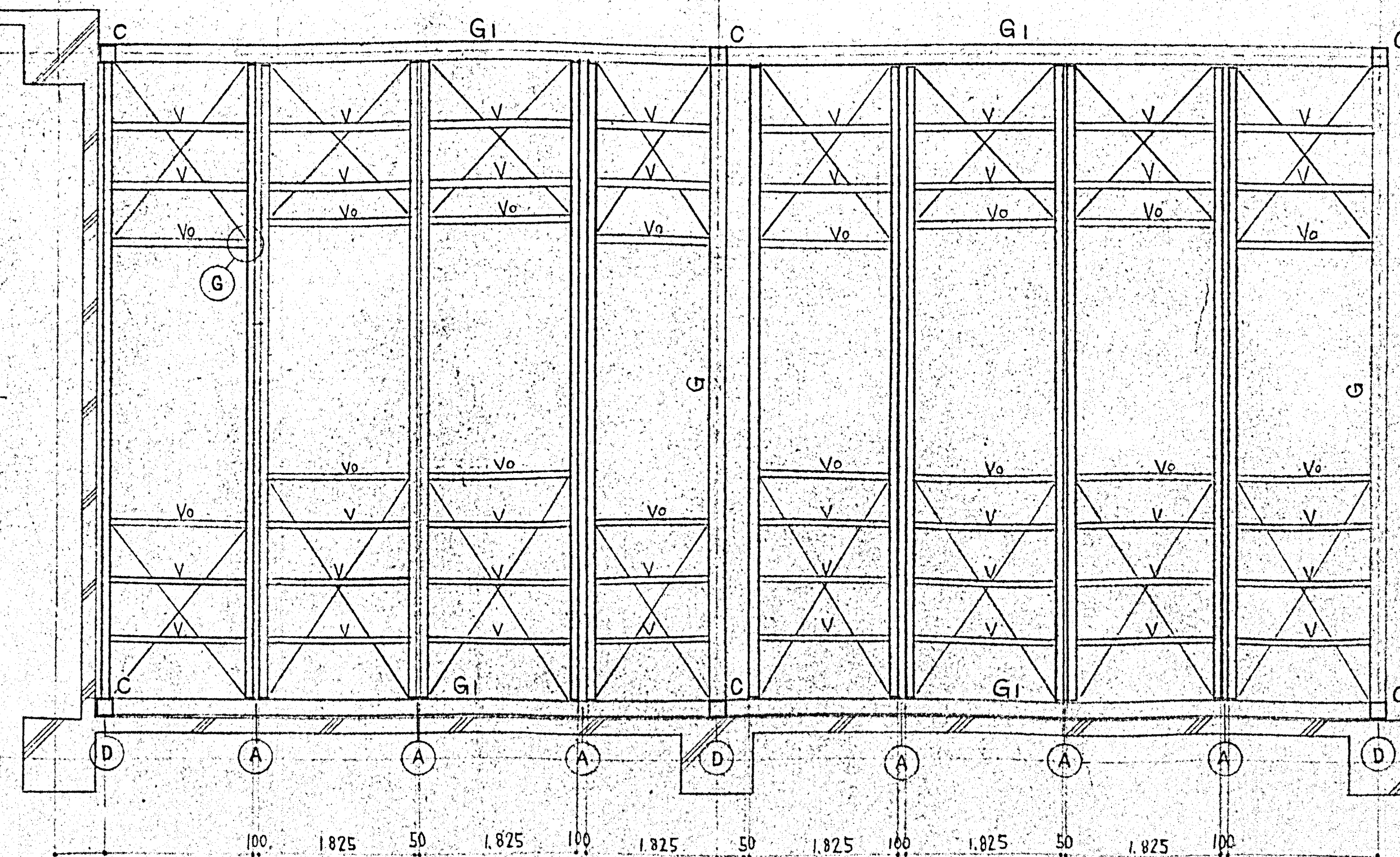
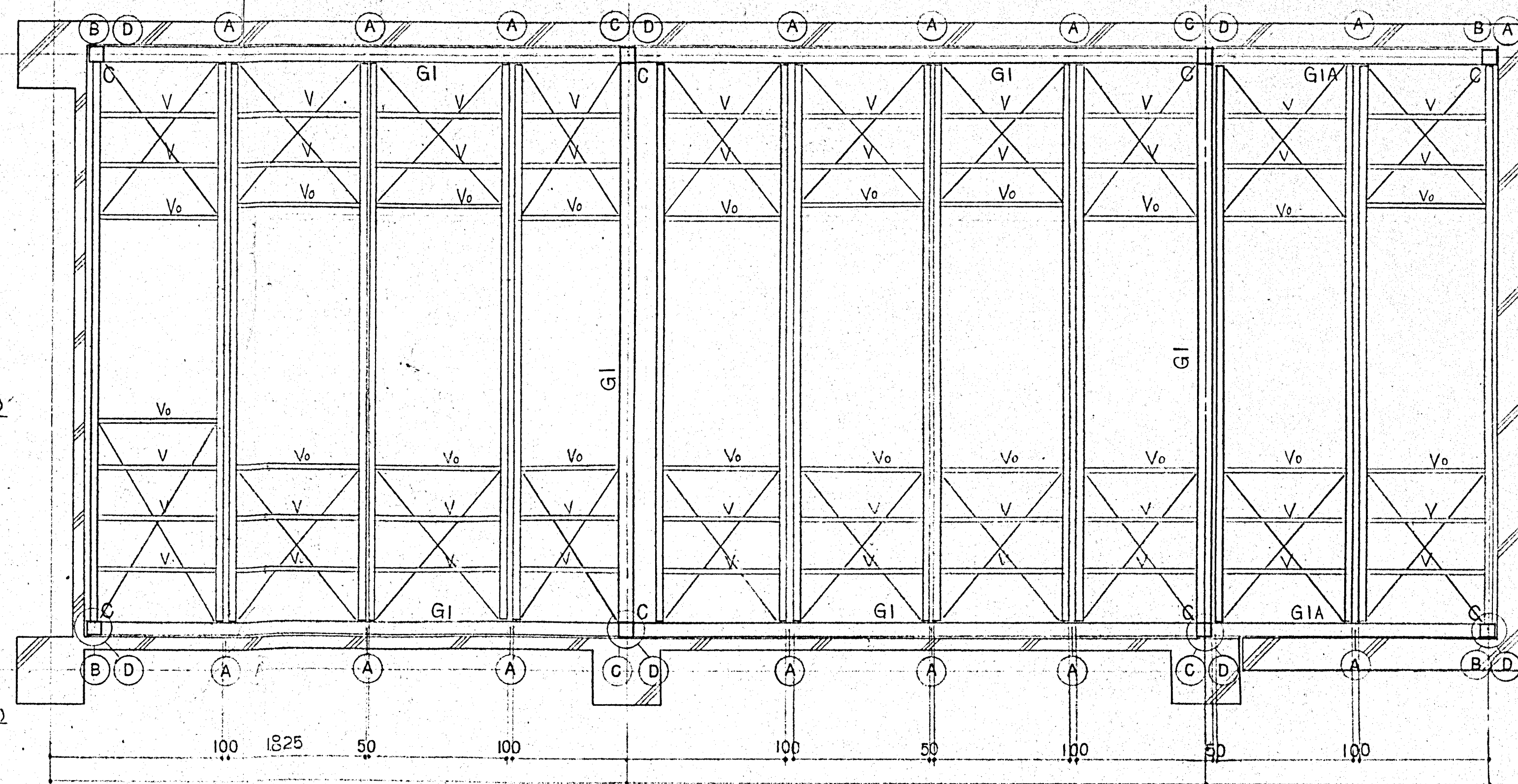
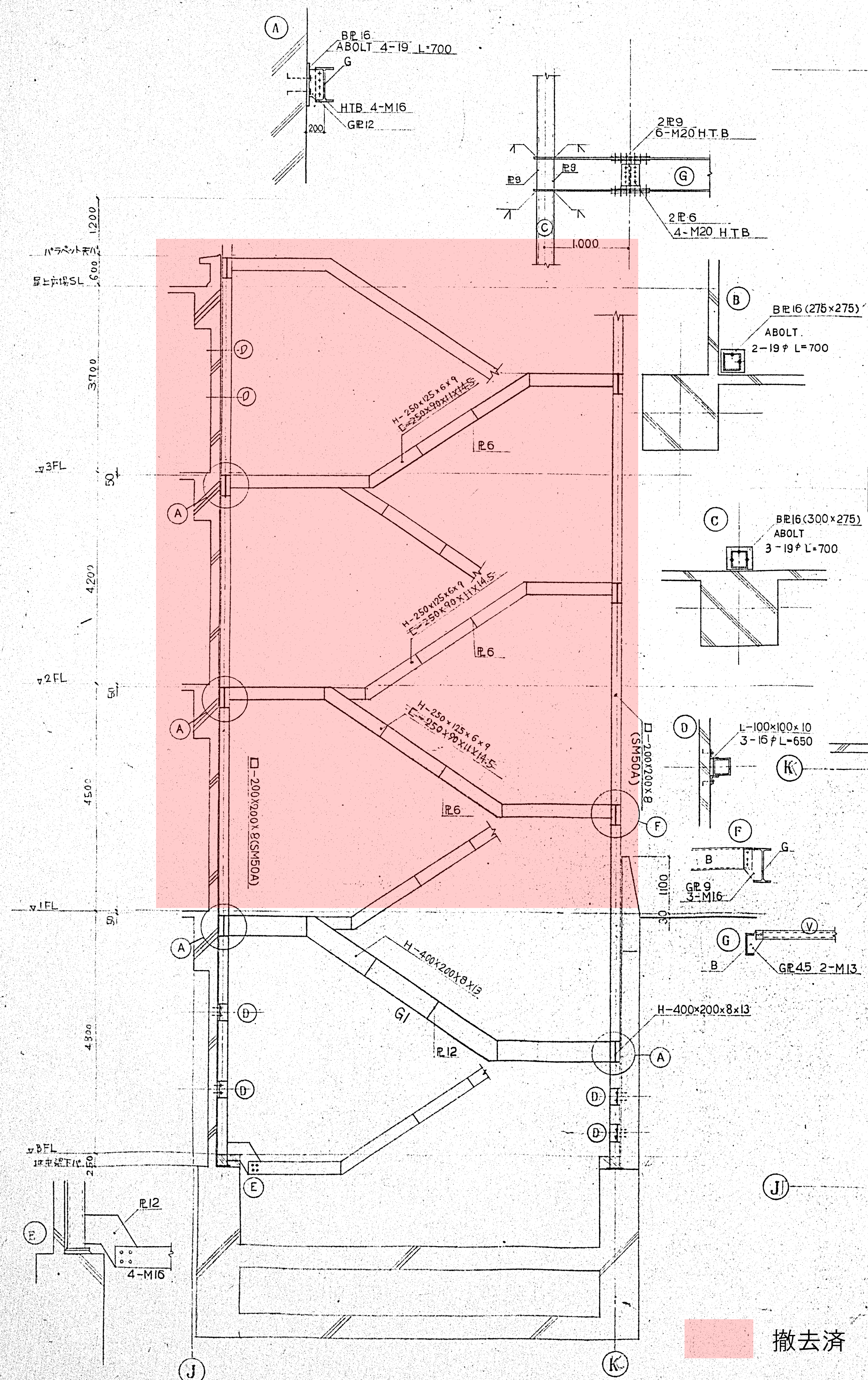
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。

高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。
高力ボルトは、母材と同等以上の引張強さを有するものを使用する。



記号	部材
C	□-200x200x8 (SM50A)
(G1A) G	H-400x200x8x13 (300x150x6.5x9)
V	C-100x50x20x2.3
B 隅桁	E-250x90x11x14.5 H-250x125x6x9
フリース	1-16 (TB付) 1-M16 HTB E-6
フリース	L-50x50x6 2-M16 HTB E-6
高力ボルト	F10T
V0	H-175x90x5x8 C-125x65x6x8

※ 詳細大建図にヨリ

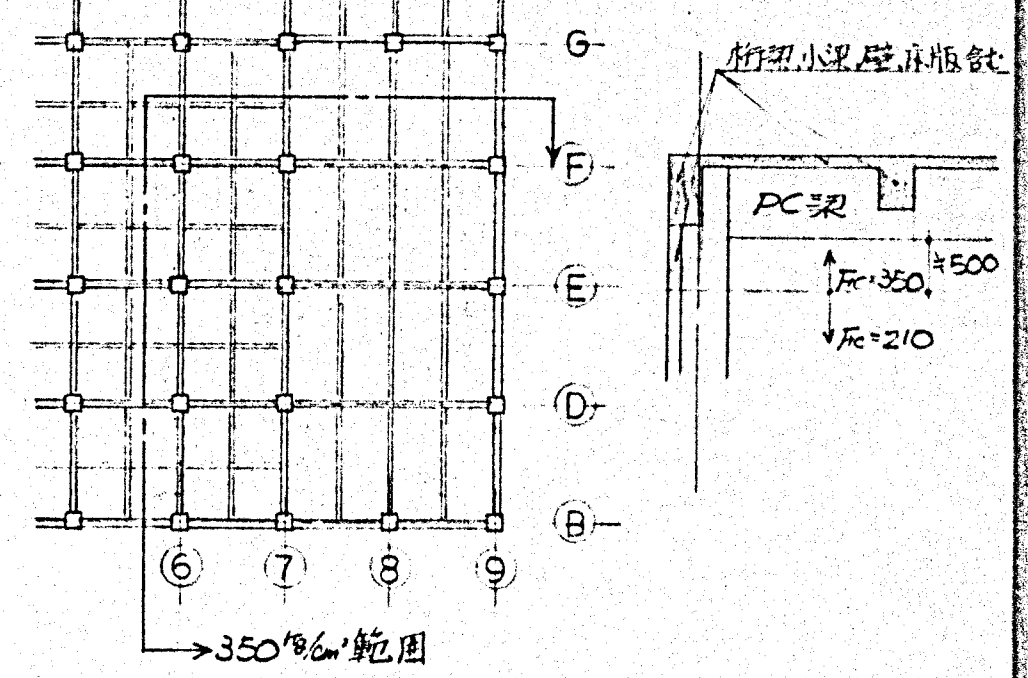
JOB NAME KK両友ストア関西大和郡山店新築工事		JOB NO.	
DWG NAME E階段詳細図		SCALE 1/50	
DES. DATE	CHK. DATE	APP. DATE	SHEET NO. S-30
株式会社 恒東設計事務所		株式会社 吉村建築事務所	

解体撤去済

PS エンワリ-ト 特記仕様

1. 使用材料 1) コーリト PC部 $F_{28}=350 \text{ kg/cm}^2$ (導入時 300 kg/cm^2 以上)
標準スラフ $15 \text{ cm} \pm 1.5$

<打設区分>



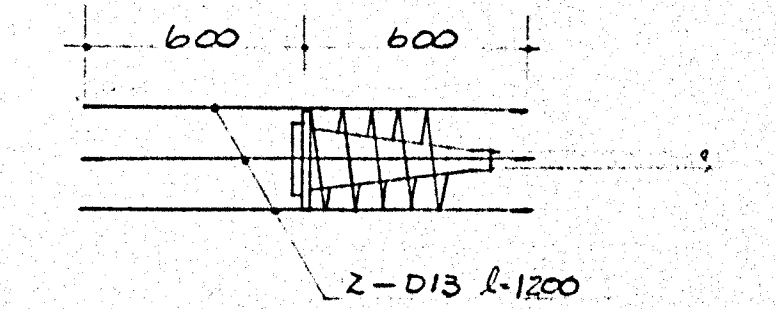
注) 内部面切壁(RC)はストス導入後打設する。

ii) PC 鋼材 JIS G 3556 の規格品とする。
下記に PC 設計施工規程における
各規格値を示す。

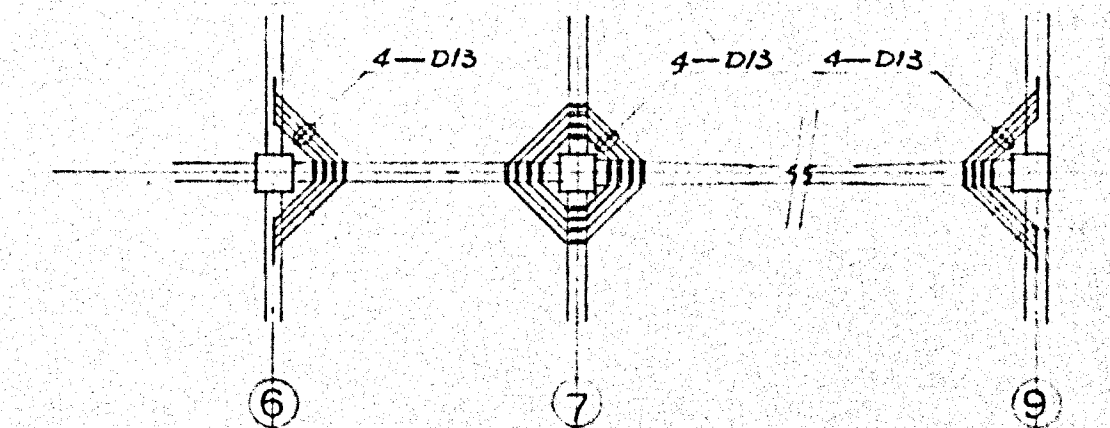
呼称	〈译 名〉	〈I-7-10〉
引张荷里	PT TM PC鋼像	BT-(34.70)
降伏荷里	5.950 ^{kg}	202.3 ^{mm}
許容引張荷重	5.200	176.8
定着時	4.160	141.4
荷入時	4.420	150.2

但し、施工時導入力、中央設計ストロカ(4PGz → 321.1, 5PGz, 2PGz → 418.2)又有効率(0.85)より緊張計算書を作成の上係員の承認の元決定する。

2. その他 i) アンカー-礎着体背面補強(側面型)



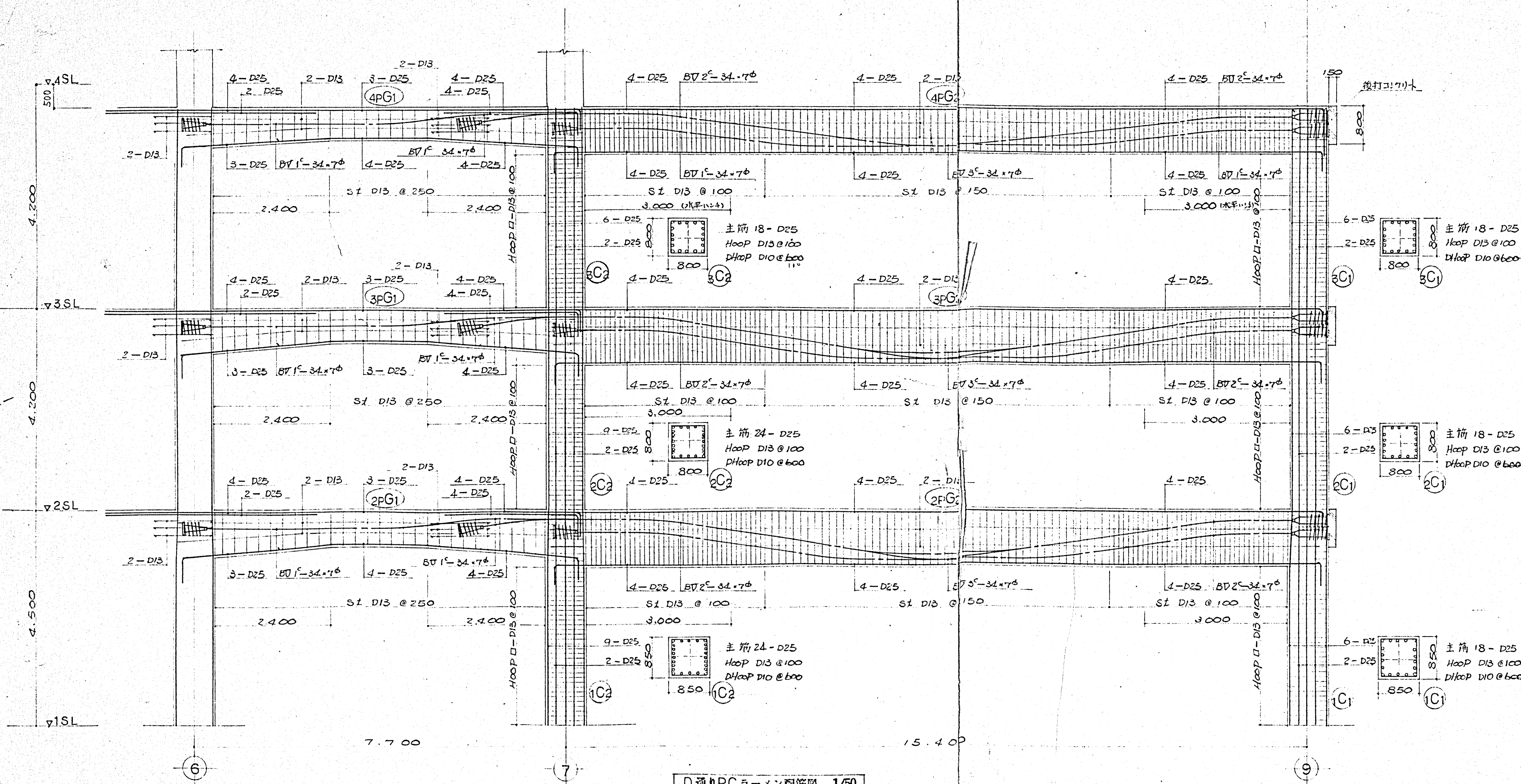
ii) 床版補強 (1ヶ所中央に配置)



※ 榎討論 5-31 工事の使用 18.11

JOB NAME KK 国友ストアー関西大和郡山店新築工事		JOB NO.
DWN. NAME PC 架構図		SCALE 1/30 1/50
DSG.	DWN. 1/5	CKD.
APP.	DATE	SHEET NO. 3-31

株式会社 恒楽設計事務所 株式会社 吉田建築事務所



D通りPCラーメン配筋図 1/50

梁 リ ス ト 1/30 ※腹筋はS1と同径とする、巾止×筋小、D10 @ 600とする

記号 位置	4PG1			4PG2			3PG1			3PG2		
	(6) 端	中央	(7) 端	(7) 端	中央	(9) 端	(6) 端	中央	(7) 端	(7) 端	中央	(9) 端
断面												
断面 (B×D)	450×850	450×700	450×850	600×1,000	450×1,000	600×1,000	450×950	450×750	450×950	600×1,200	450×1,200	600×1,200
上端筋	6-D25	3-D25	8-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	3-D25	8-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スタ-ラ-フ	D13 @ 250			D13 @ 100 D13 @ 150 D13 @ 100			D13 @ 250			D13 @ 100 D13 @ 150 D13 @ 100		
P.C 鋼材	BV1'-34×7 ^φ BV1'-34×7 ^φ BV2'-34×7 ^φ			BV 3'-34×7 ^φ			BV1'-34×7 ^φ BV1'-34×7 ^φ BV2'-34×7 ^φ			BV 4'-34×7 ^φ		
記号	2PG1			2PG2								
位置	(6) 端	中央	(7) 端	(7) 端	中央	(9) 端						
断面												
断面 (B×D)	450×1,000	450×800	450×1,000	600×1,200	450×1,200	600×1,200						
上端筋	6-D25	3-D25	8-D25	4-D25	4-D25	4-D25						
下端筋	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25						
スタ-ラ-フ	D13 @ 250			D13 @ 100 D13 @ 150 D13 @ 100								
P.C 鋼材	BV1'-34×7 ^φ BV1'-34×7 ^φ BV2'-34×7 ^φ			BV 4'-34×7 ^φ								